

尾張名所圖會

後編

三







尾張名所圖會後編卷之三

目錄 春日井郡上

- | | | | |
|--------|---------|---------|-------|
| 春日井郡解 | 清須 | 同総圖 | 同古城跡 |
| 犬退物図 | 五條橋 | 牛頭天王土 | 花火図 |
| 山王権現社 | 正覚寺 | 清凉寺 | 上畠神社 |
| 家傳夢想丸 | 琉球人休息の図 | 小山田紀内の話 | 御樹木屋敷 |
| 御園 | 中島宮 | 總見院 | 朝日殿宅址 |
| 浄念寺跡 | 朝日柳 | 落合里 | 宮重大根 |
| 獨活 | 稚川菽 | 白木橋 | 同故事 |
| 阿原天神社 | 堀江観音堂 | 土器野里 | 新川橋 |
| 駿河塚 | 中河原桃林 | 下河原笋 | 小松 |
| 五内川堤櫻樹 | 小田井城跡 | 宝園寺 | 神明本 |
| 西方寺 | 小田井壘表 | 琵琶塚 | 五社明神 |



額王寺	東雲寺	星大明神社	大聖院
法源寺	長善寺	東岸居士舊跡	新福寺
眞福寺	伊奴神社	稻生合戦	名生
伏越松	觀音寺	丹羽長秀	多奈波太神社
越智氏城跡	林泉寺	綿神社	銀冶屋敷
平手政秀宅址	小僧菴菽	安食氏旧居	聖徳寺
乗圓寺	成願寺	味銃村	味銃神社
天永寺	陰陽師元太夫	大井神社	瑞應寺
蛇池	佐々内藏助城跡	洗堰	大野才堤
大乃伎神社	塙宗悦宅址	小高園	高田寺
平田寺	黒池龍神社	松元院	十所社
山王社	菅天神社	法成寺廢址	徳重里
林證寺	志賀田天神社	仁昌寺	訓原神社

熊野社	稚川鯉抱の事	日光寺	牟都志神社
常安寺	物部神社	春日井原	西行堂上橋
外山神社	妙藏寺	片山神社	龍徳寺
坂庭神社	多氣神社	尾張神社	栗田地神社
栗崎氏保童圓	連理木	木津川	小木里
宇津宮社	船津社	賢林寺	正眼寺
小牧驛	小牧山	同城址	神明社
玉林寺	西源寺	八幡社	實々天神社
龍音寺	岩崎山	丹羽氏家傳妙劑	二重堀岩跡
田縣神社	主惠郷	小松寺	大泉寺
白山社	非多天神社	児權現社	

春日井郡上

當郡・愛智郡の北ふ並ひ國の中央より良の方一長く美濃三河の國界にまはり郡中の村里田島豊饒なりて東三河の賀茂郡小隣と南の愛智郡とより西の海東中急の二郡小接し北はまはる丹羽郡と堺とす其より東の美濃の可兒郡土岐郡小豆郡より春日部春日部ともいふと元永以前の頃より今の如く春日井の文字を用ひたり
三代實録の貞觀十九年の記
延喜氏部式和名抄瑞囊抄
等に春日部と名を延喜神名式拾芥抄梅華元永藏
三國傳記等に春日部と名を共小田郡なり元來國內の大郡なり
より山田郡の廢より後其村里多くも郡小屬となりて今に比ぶ廣大なる郡と名たり

清須 當郡中西南のほとと南の中央ありて中昔より武家守護の居城の地として清須府としてとを遷す所遷府の後、駿舎のよりと東海道より美濃路へ通入宿驛なりしが旅

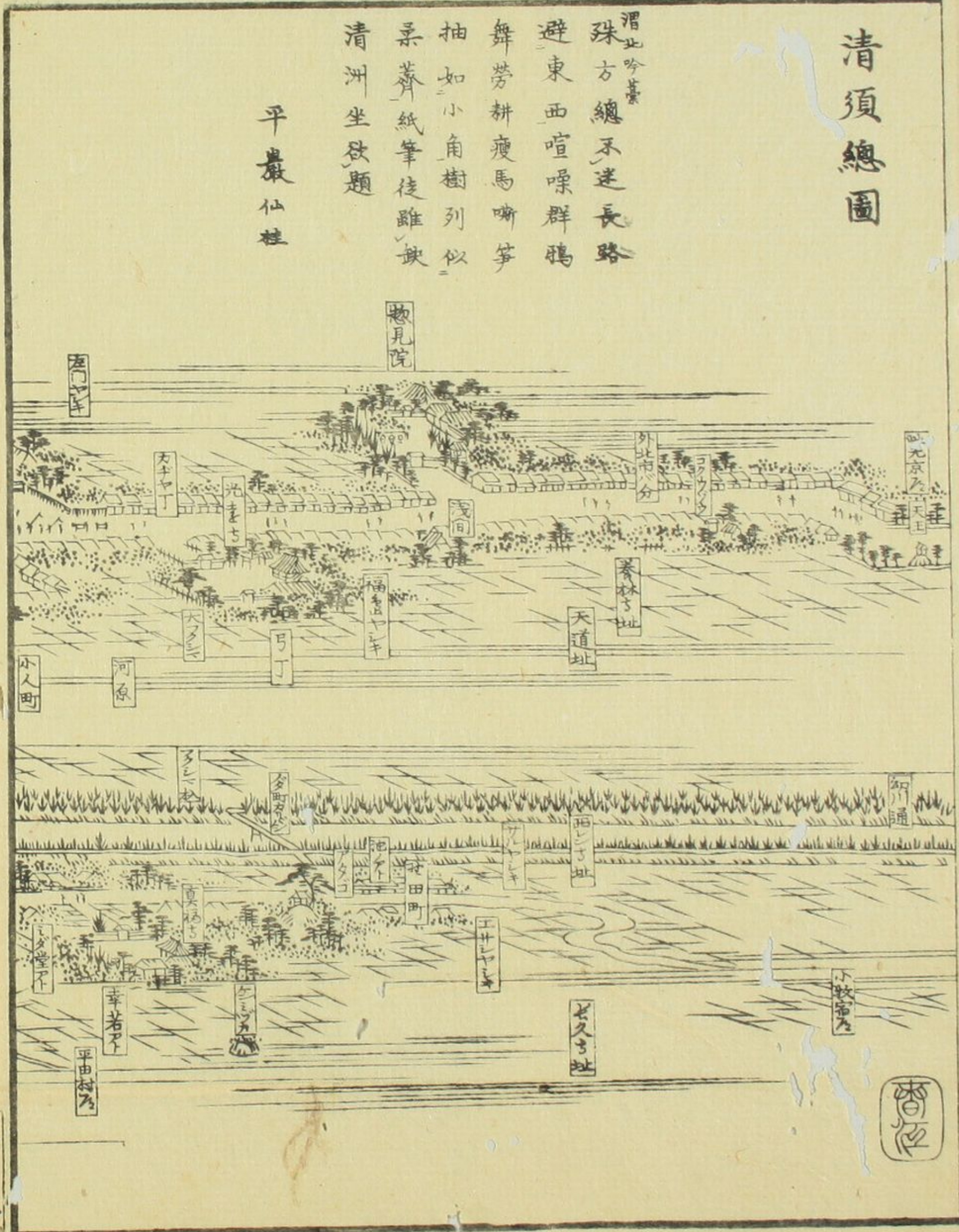
宿休茶屋等軒として所並りありて西國中國九州四國の諸侯として京都大坂奈良伏見長崎等の友人江戸上下の輩此地を經ざりて又勅使院使の公卿諸親王御門主のいも尊き御方も此地と過りて諸國の名人神佛と名所の貴賤ありて朝鮮琉球の聘使も此地を足としてりて事行きた小笠原の一都會なりて境地は廣く當郡及び中急海の東の三郡小豆郡十二村合して町並も數十町あり清須として号し神鳳抄小清須御厨と名するなりとありて古今六帖の藻の奇に藤より今をあらわすなりとありて地名としていひけるなりとありて今をあらわすなりとありて清須のまこと思ひしや徹書記にこの清須小を清をよとありて

神代卷の清須の地をあらわすなりとありて清須のまこと思ひしや徹書記にこの清須小を清をよとありて

清須總圖

渭北吟藁
 珠方總不迷長路
 避東西喧噪群鴉
 舞勞耕瘦馬嘶笳
 抽如小角樹列似
 柔莠紙筆徒離缺
 清洲坐飲題

平巖仙桂



北擊南侵隘
 八荒禍機誰
 料伏菁堵荒
 塚僅禁村童
 牧曾是君家
 閱馬場

菅茶山

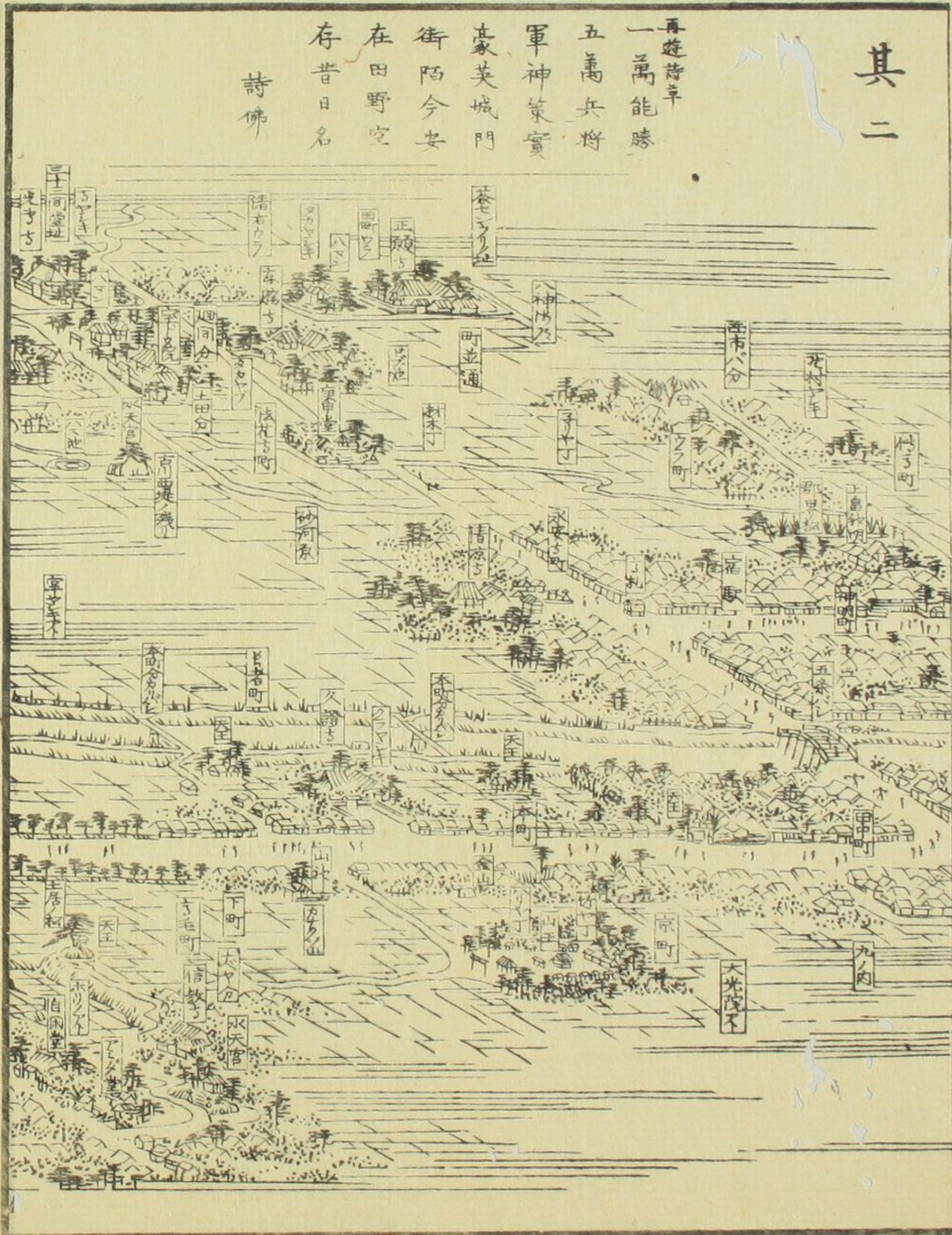
城跡のわらわりの
 小槽をりし
 わらわりの
 けし
 外形の
 野堂



其二

再遊詩平
一萬能勝
五萬兵將
軍神策實
豪華城門
街陌今安
在田野空
存昔日名

詩佛



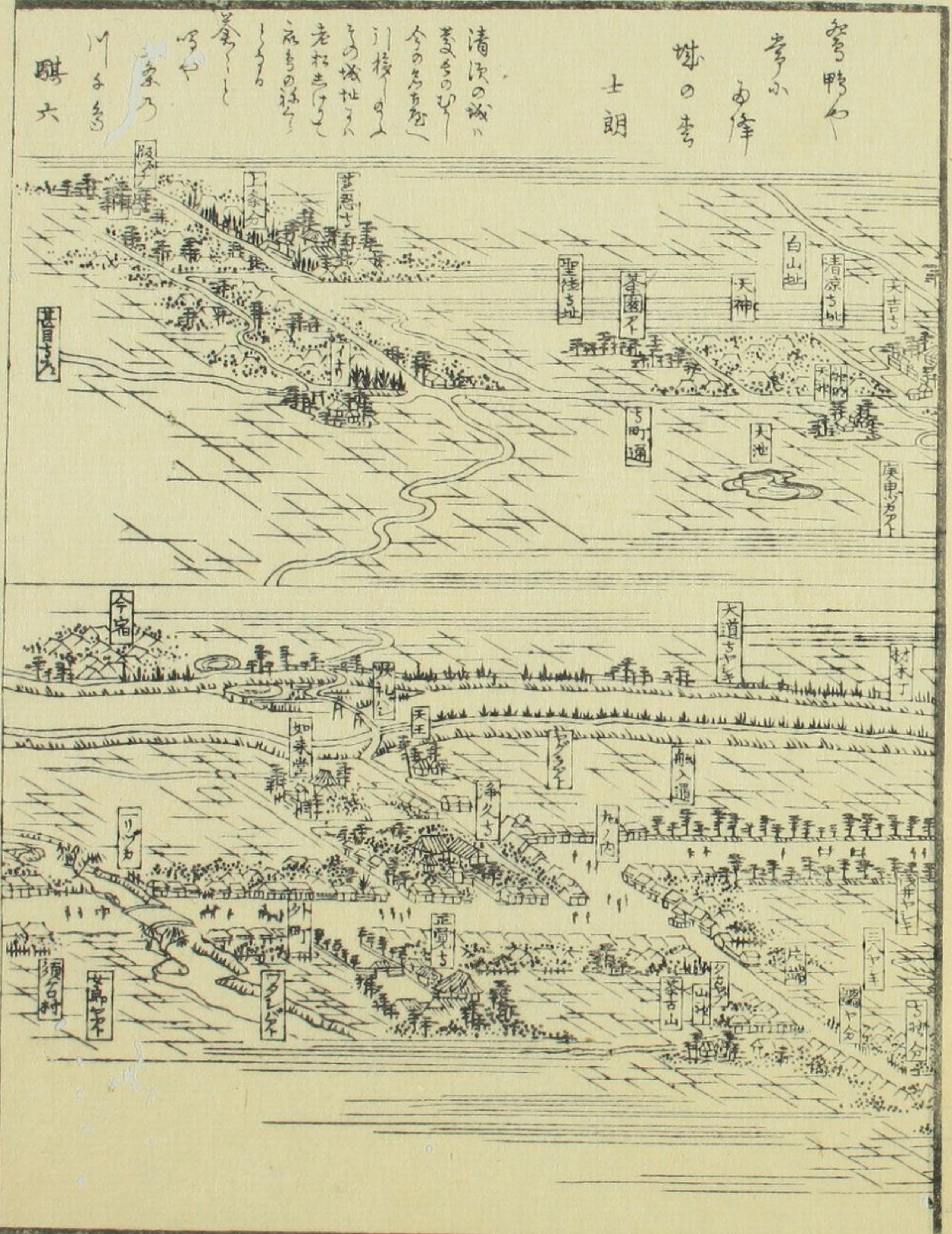
お寺鴨や

寺の
由降

城の寺

士朗

清沢の城
昔の多のひ
今の名も
川核の
老ねま
衣の
ま
川
騨六



ある官軍に敵對し奉りて建武年中越前國より新田義
貞父子を討取し功ありし由ふ及び越前中より遠江半國を賜
りり青生尾張守と名乗り其子官領左衛門佐義將此義
重の父之義重父子奇人として新續古今集等小入り義重の子
治部大輔義淳其子治部少輔義郷其子治部少輔義健其
子左兵衛督義敏まで代り官領斯波氏を称し尚國及び越前
並にの守護として其身の左系に家人とあふたりて國勢と
り行りて其次のも漢治部大輔義廉他家より斯波の家
を継ぎ義敏と不和としてやもその合戦も及ぶんとし
文明九年義廉入部して此清須に在城す夫より左兵衛佐
義寛左兵衛佐義遠治部大輔義統まで尚嫌ありて家老
織田大和守入道常祐及び其弟因幡守等恣小國政と執行
せしゆ名威權守護もゆるり主家とあむりて天文の

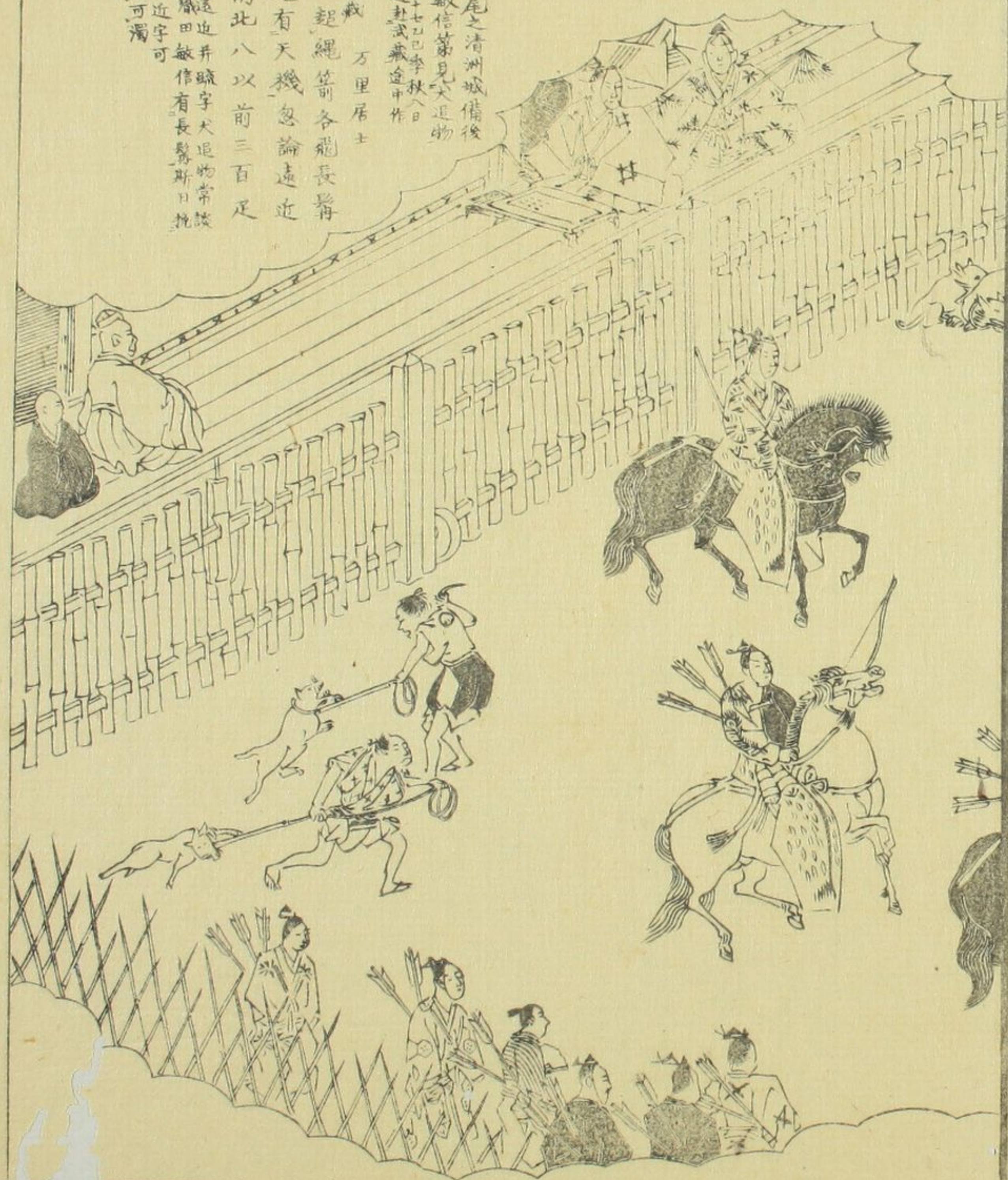
とて常祐死去し其ま子彦五郎信友家督と継ぎて其後
暴威ありて天文二十三年義統の家人梁田弥次右衛門那古
野弥五郎等謀りて信友と誅せんとして其頃義統は尚嫌のな丸
小居住りて信友の次の廓小居たり弥次を遣り等信長公と調
り合せ七百餘騎少く尚城小押寄せ信友と攻りて信友が
家人多く強剛として本意と得ず一旦和として退散しぬ
りてけしき彦五郎信友主君義統と恨り同年七月十日義統
の嫡子岩竜丸堀江村一川狩に出られし家人多く併りて城内
敷人小急し急し本丸取りて攻りて不意と討りて森刑
部少輔同掃部丹羽左近等の今内外に走りたり防戦せり
ども皆討取らして義統とて老臣三十四人自殺す岩竜丸は
川也とて此逆乱とて直に那古野小進行信長公と頼りて其



織田備後守大追物と見し圖

圖

八日尾之清洲城備後
 守敏信第見天近物
 文明十七日季秋八日
 東遊赴武藏途中作
 檢見有「天機」忽論遠近
 疏南北八以前三百足
 威遠近并賊字天近物常談
 留余近字可
 清不可濁



其二



先天王坊へ入るを命じらるり信友と裁し、尚城を拜
り、信長公其不義とあり、日あり、信長と軍兵と、ひ逆謀
の張本人織田三位房等八十餘人と討取り、折り、
駿河の今川家より當國と犯し、軍勢と差向、防さ
際、其年、其の翌年二月信友の家老坂井大膳信
長公に和を乞ふ、公中、其の叔父織田孫三郎信光を尚
城の南の丸に移し、信友と西守護代と稱し、和睦す、のいぬ、
四月十九日信光入城あり、翌廿日大膳が兄大炊助と城中、
誅戮す、大膳城を逃去り、彦五郎も叶り、や思ひ、
近習五六人召連、終と出む、所と善く相圖の狼煙と上り、
信長公那古野より大軍を、押寄、信友と誅戮す、のいぬ、
信長公那古野より尚城より、若童殿と元服あり、斯波
治部大補義銀と移り、補佐あり、永禄四年義銀不

族を、信長公と亡り、公の恩あり、
次の愚将國家と治、義銀と追拂ひ吉良石楯
と追放す、足利武衛の高家、断絶す同年の
秋信長公上洛す、尾張の守護織田補、威權多し、
尚城の歴代何とも武加多、中、信長公の尚城の事、
名古屋合戦記に土田氏の女と、織田長清の、織田系譜に母土田下総守源政久女と、
古屋合戦記に天文三年正月信長此城、同四年同郡古渡村に新城と、
古野使公、同紀の天文十年、公自林上総介と、受領の勅、
同三年乙亥十一月四日權大納言同七日右大將、同四年丙子十一月十三日正三位同、
一日丙大臣同五年丁丑十一月十六日從二位十一月廿日右大臣同六年戊寅正月六日正二位同、
四月九日兩職と辭し、同十年六月二日京都本能寺、先秀の、自裁あり、
其、尚城を、弘治元年四月那古野の城より移り、同三年
八月稻生合戦同三年西月、信行不義の、同四年、尚城に、
越後侯に、其の里人、銭税と出、

清洲城壘

君りよめはくせしひさき

石ふくと共よ妙りて

くちせきしき

吉田貞

くわしたる

よれあはれまハ

大少塔の

古御とこそ

いふ庭

大鐘真守



石巻
吉田貞

代とと控て

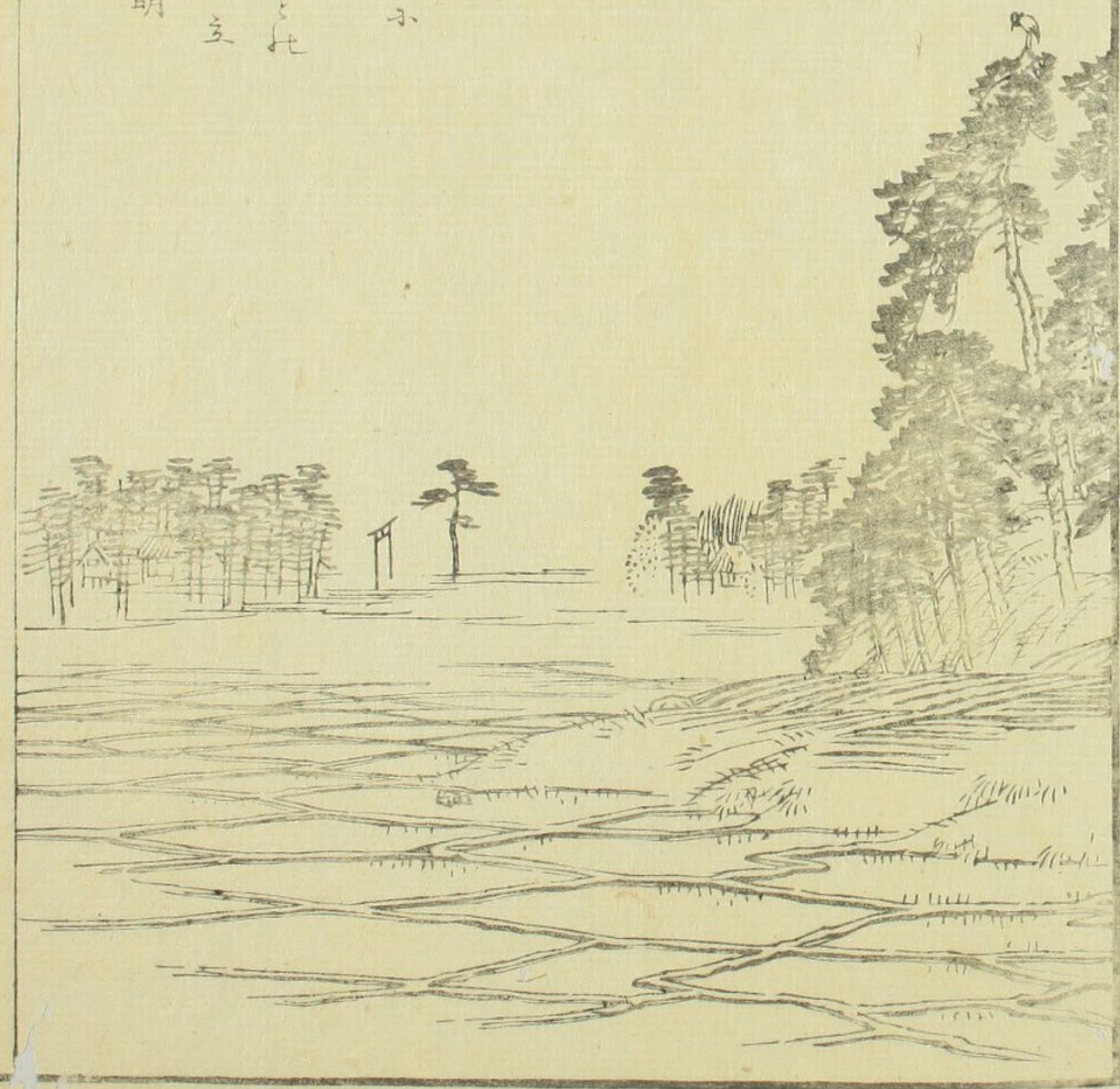
よれはかさハハ

兼えり

大城のちとれ

まつのむくま

林正明



私見以爲記繫以銘曰
 見代己改城郭亦如地
 人田歸鶴視爲何如
 青魂歸鳥或來倚嫌
 英文久二季版次伊勢
 夏
 興霸之地委爲荒蕪
 唯兩松樹昔人野餘
 松乎其友鶴乎其徒
 五月其友
 松月隱士齋藤謙撰
 堂隱士齋藤謙撰

清洲古城殘瓦 正面摺縮圖

高松館藏



五條橋

目所五條川小堀一丁目街道の板橋に五條橋の系に
 川筋も御通しとていふことあり五條川もよ
 以川小堀多き美味しく世人大に羨す

末をくみりてあれ清洲川にせよむいなりさるん 本居春庭

牛頭天王社

五條橋の西北にあり

当社幼清の年月志とて原とすども

とて清洲の四天王とて名あり社ありしひ傳ふれが当城下の
 の繁業より一頃の幼清もや其四天王とて今清洲を町
 五條川岸外北市場場海道堀朝日村のうらと当社より
 なる大社ありねど例年六月十四日の祭りに當国主の奇
 觀して稚川の兩岸小花火の大筒と數十本設け花火方東
 西の岸より川中へ水橋のおれをのを作りおてまことに集會
 一其業とて次第の四半吹流し風ふりてつ編翻り又
 車樂の船二艘と川中小浮べりけをり凡津島の車樂に
 似たりそのおかしき花火の作りお所口までま直り花火ハ



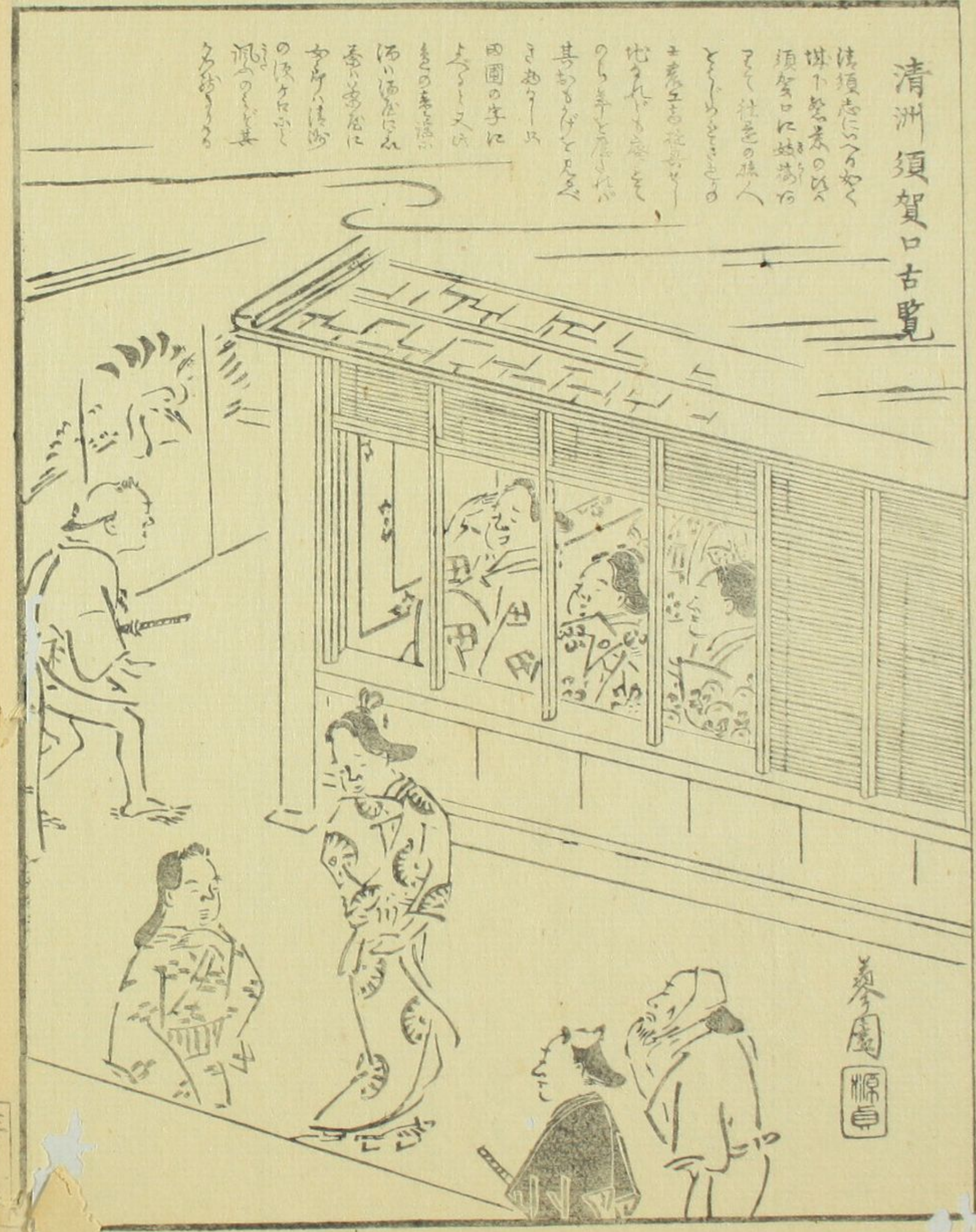
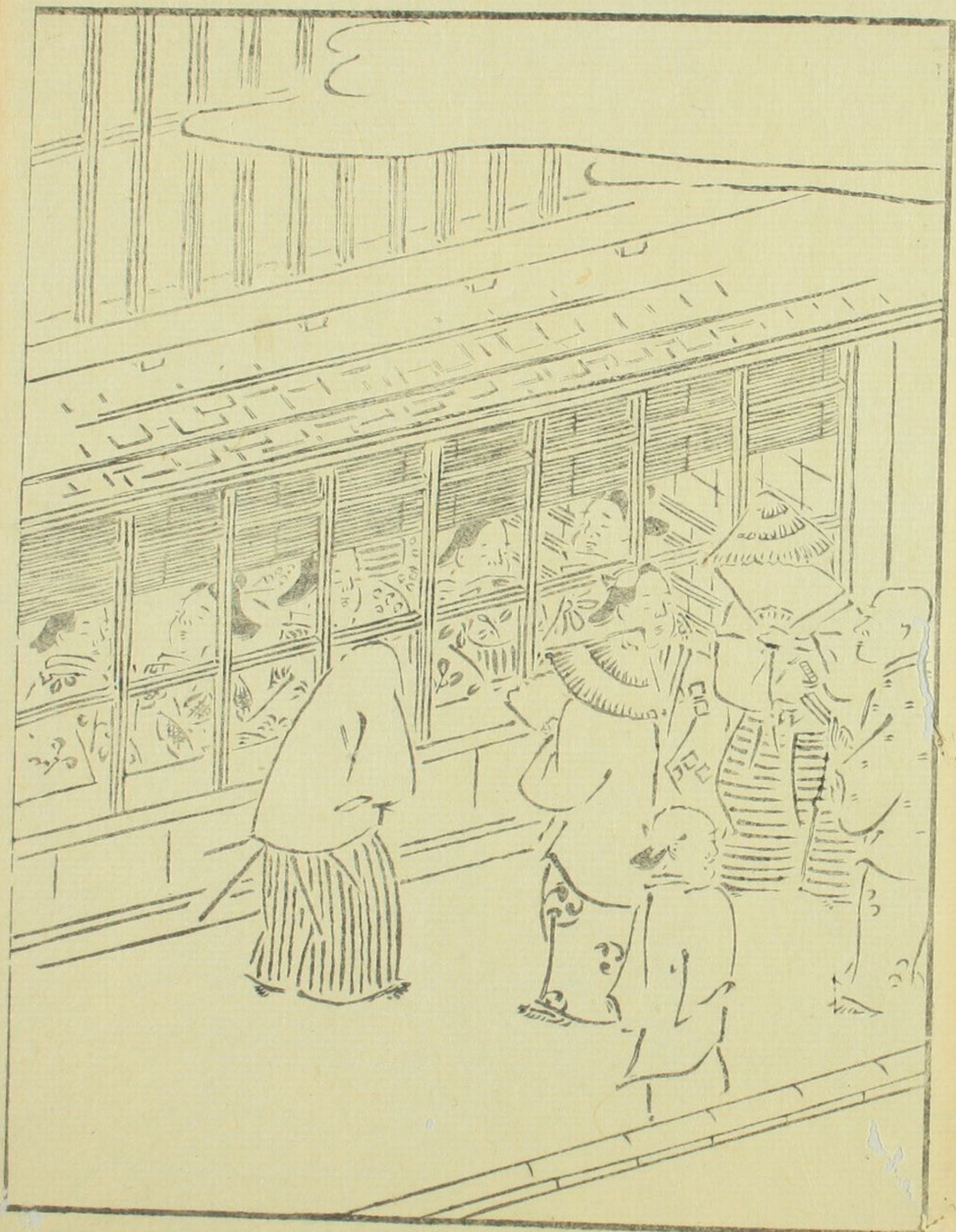
四五
 花すれ
 柯苗

香



清須花火

きらけい
 火のひら
 利増



清洲須賀口古覽

清洲須賀口は、
 徳川幕府の政治の中心地として、
 江戸と京都を結ぶ重要な交通の要所であり、
 多くの商家や職人が集まり、
 活気ある町並みを生み出した。

養子園
 源卓

山王社

山のきも

うき

うきりに

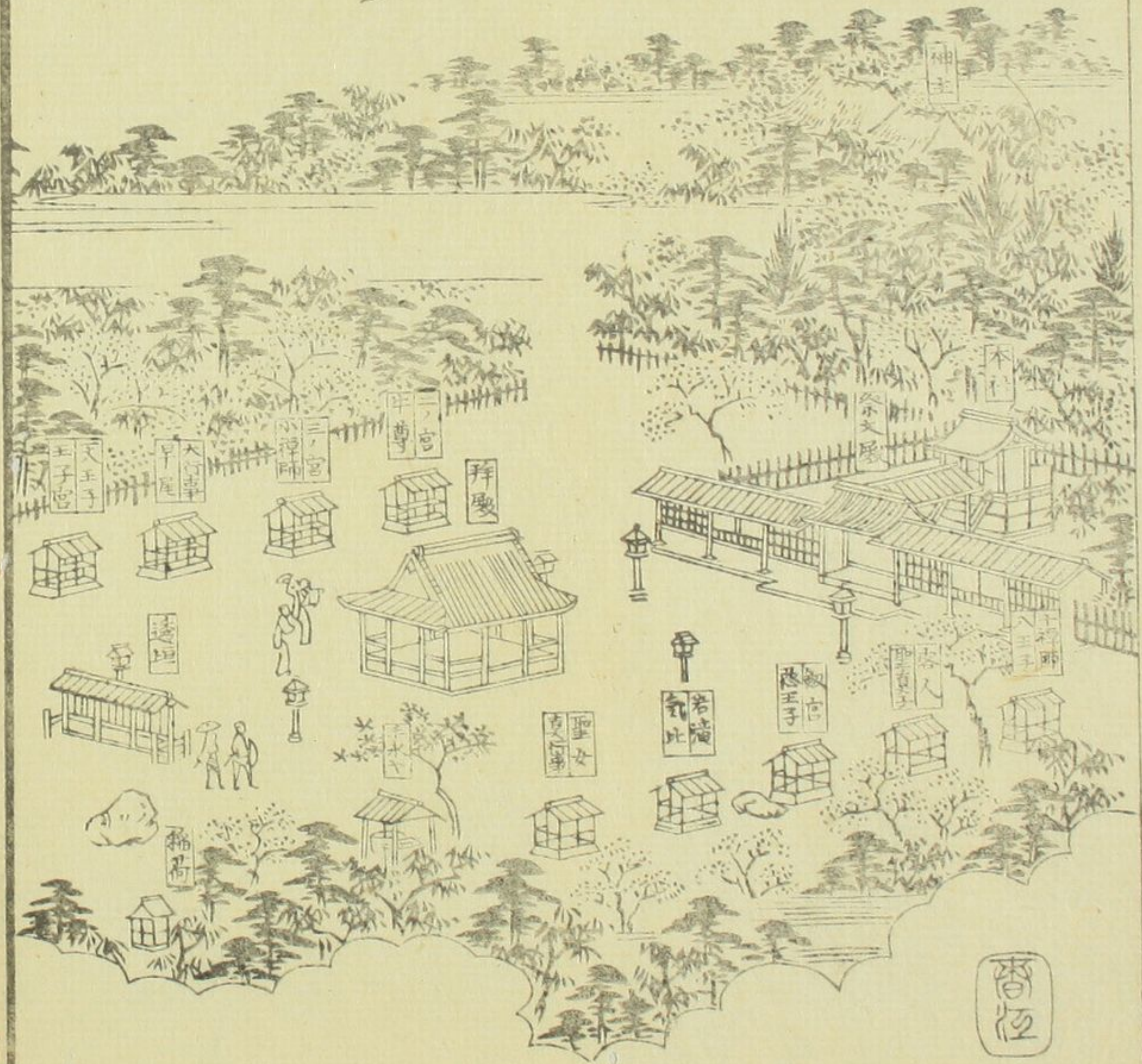
うきき

うきふき

うき

うき

正次



尾張名所記

風のまろけ

揉ハ山王社

木の景ノ礼

屏竹

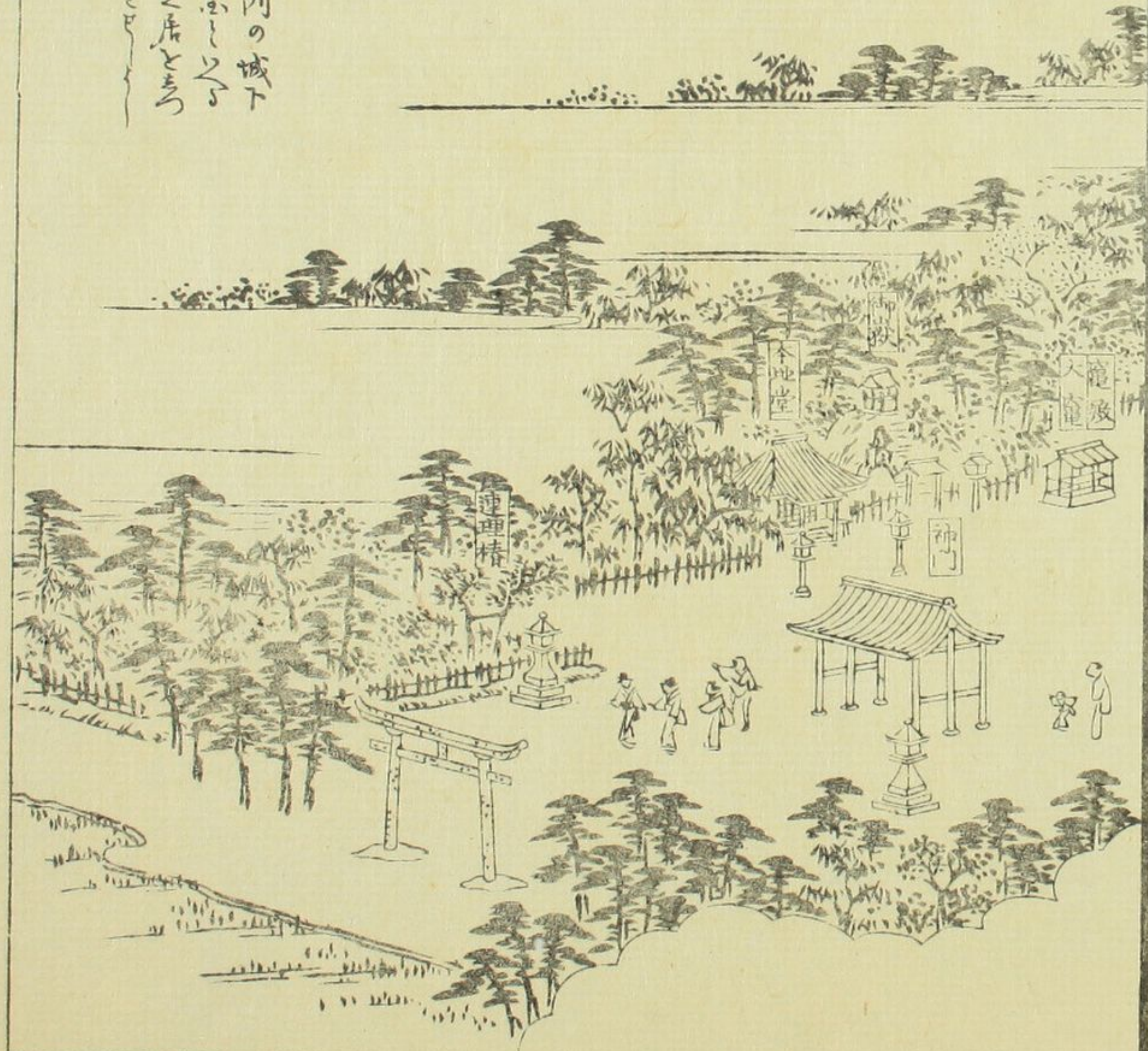
まろけ

ふより

夕ゆり

我見

尾張名所記にびしり清洲の城下
並んある付小部方よりおふしり
傾城山王のりしにきて芝居とま
らひや子やうしりまよと
あるせり



清須驛高札場
清涼寺



つらの次よりきりきりきりきり
正月二十日のうらまは海の町
妙竹と唱へて四辻おくら大母井
と一本走らうと傍やういふ色
紙とシテ小切さ葉ふつけ竹の
中流小切とさめめさのよふ
大板及び破たれとゆひつけ竹
のうらうらもいづれとゆひ
小破たれと十文まきまき
ゴキとつけ入竹の根もね一
そのうらうら四のたまき
新くは境井
武田戴月が清洲志

天照皇太神國常立尊の二座と祀りて古城郭内の地にあり
を永和元年斯波右兵衛督義重とて古城と築きて今
の所に移りてなり幣殿糸文殿拜殿透垣倉庫等殿堂に
建つて後末法熱田社八幡社鉾山社あり神室ハ八幡の松花堂等の
歌仙三十六枚あり今つれてよりとりどりきりの多し惜びてのま
じりて并りに活版と並せ入用の器なりとて三尺餘の年より桶あり清
頂上高神明半切天正十八年九月十六日先正と彫付たり俗に半切といふ名の
に足たり
其外秀吉公の御朱印信雄公及び性高院君より賜ひ
し制札あり例祭八月十六日神主加藤氏

家傳夢想丸
同所本陣林氏少く製す小兒五疳驚風とてのゆゑなりと動張世人より病
ありて公の勲を請ひて信長公の老臣林佐治も信勝の末葉なり天正八年佐治も
其後寛文八年申年その子孫一高次郎の正三の子正長俗称お多清洲の地に多清次
お多清と通称し今に於て連綿お多清の家云國前に古松ありて
高松館記
清洲驛古張州治也故羽林家居馬時館驛在北市
村至城神祖封我敬公於尾陽恐清洲有晉陽之
元後城於名古屋而後百姓移居城市焉墟寛文戊

上
畠
神
明



秋
の
四
月

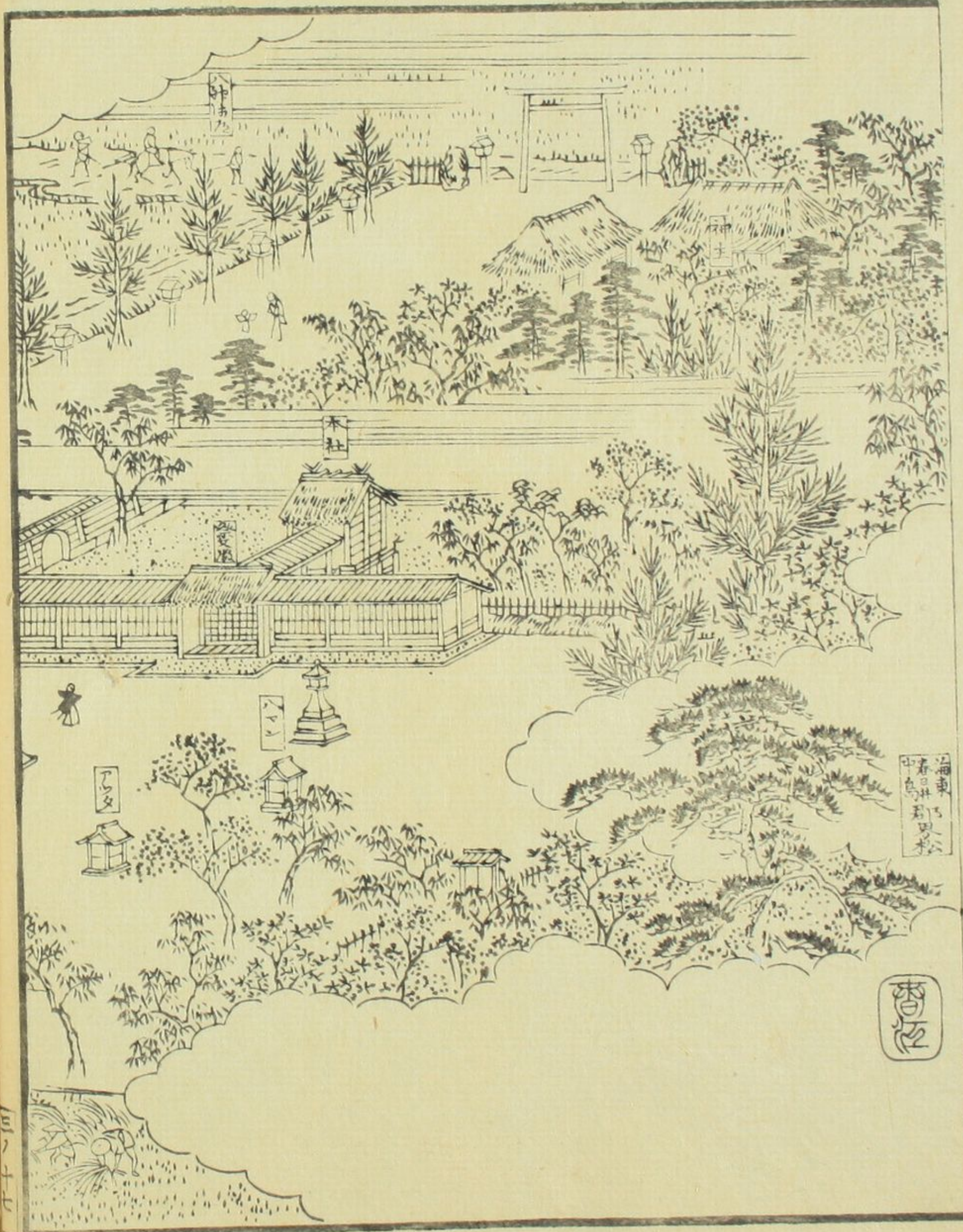
け
つ
た

美
人
と

ち
り
り
ん

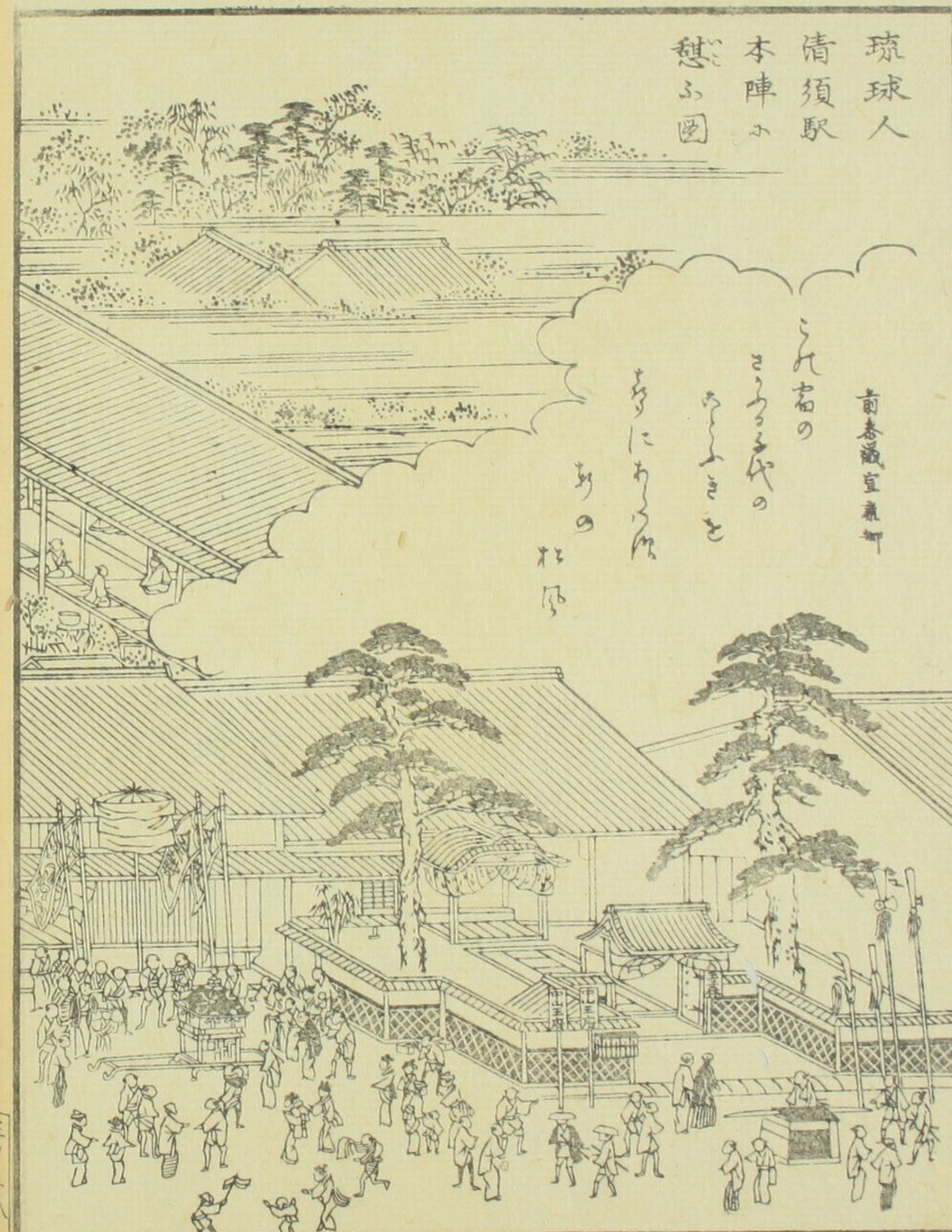
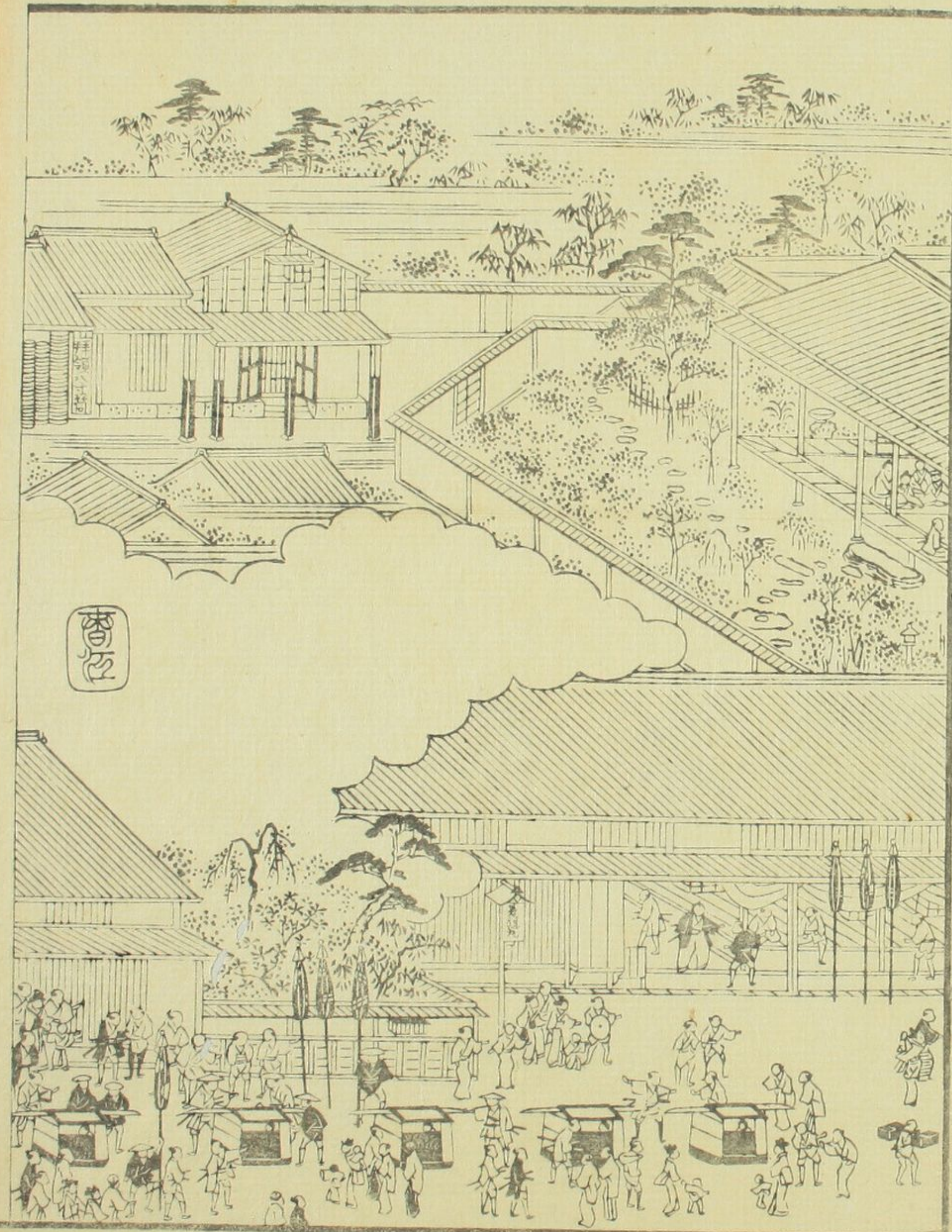
上
畠
の
神

正
明



海
東
三
島
の
景
観

香
煙



琉球人
清須駅
本陣
憩ふ園

前巻 宣麻軒

これ右の

さうりやの

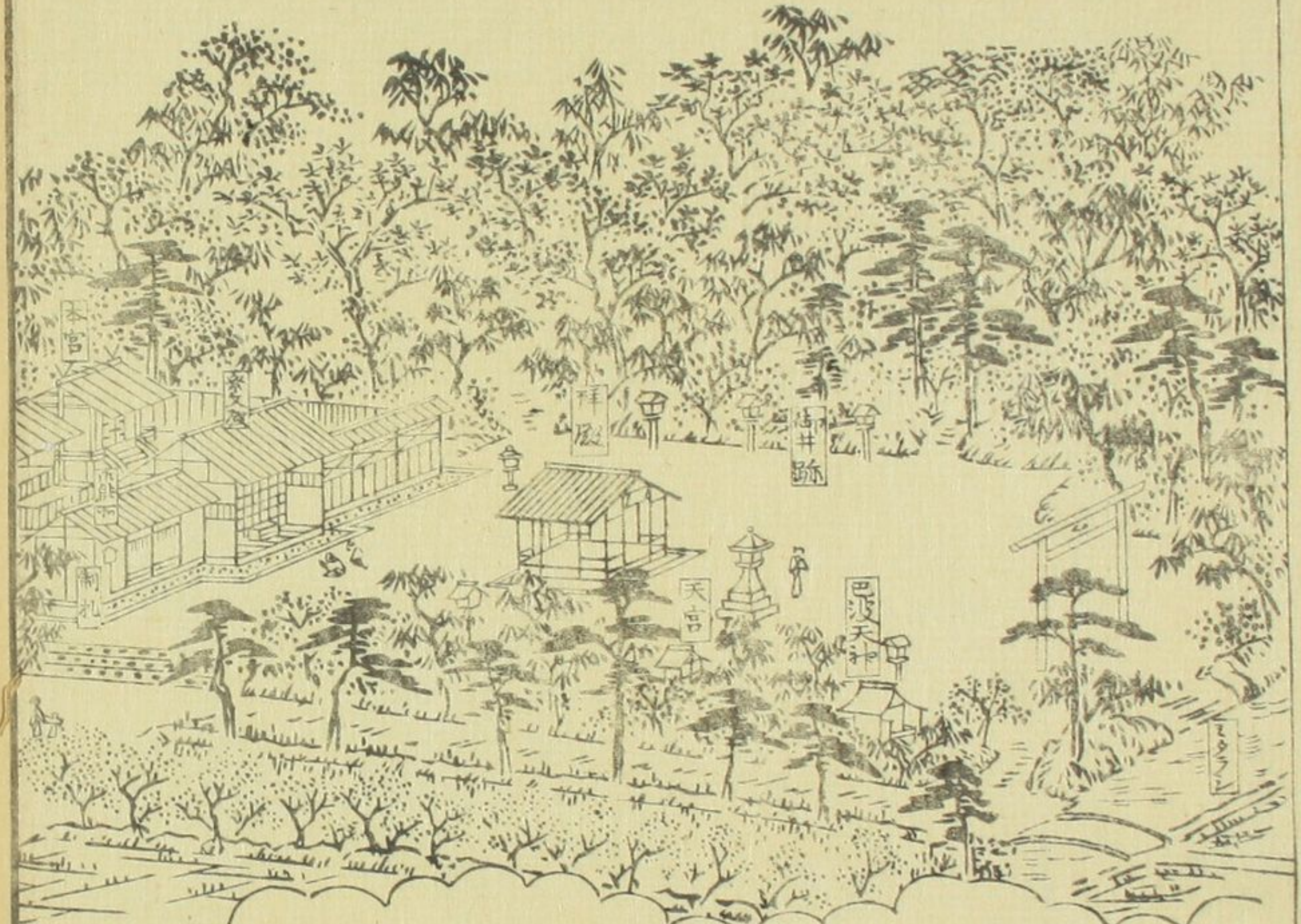
あしきと

まにまに

あ

松

中島宮

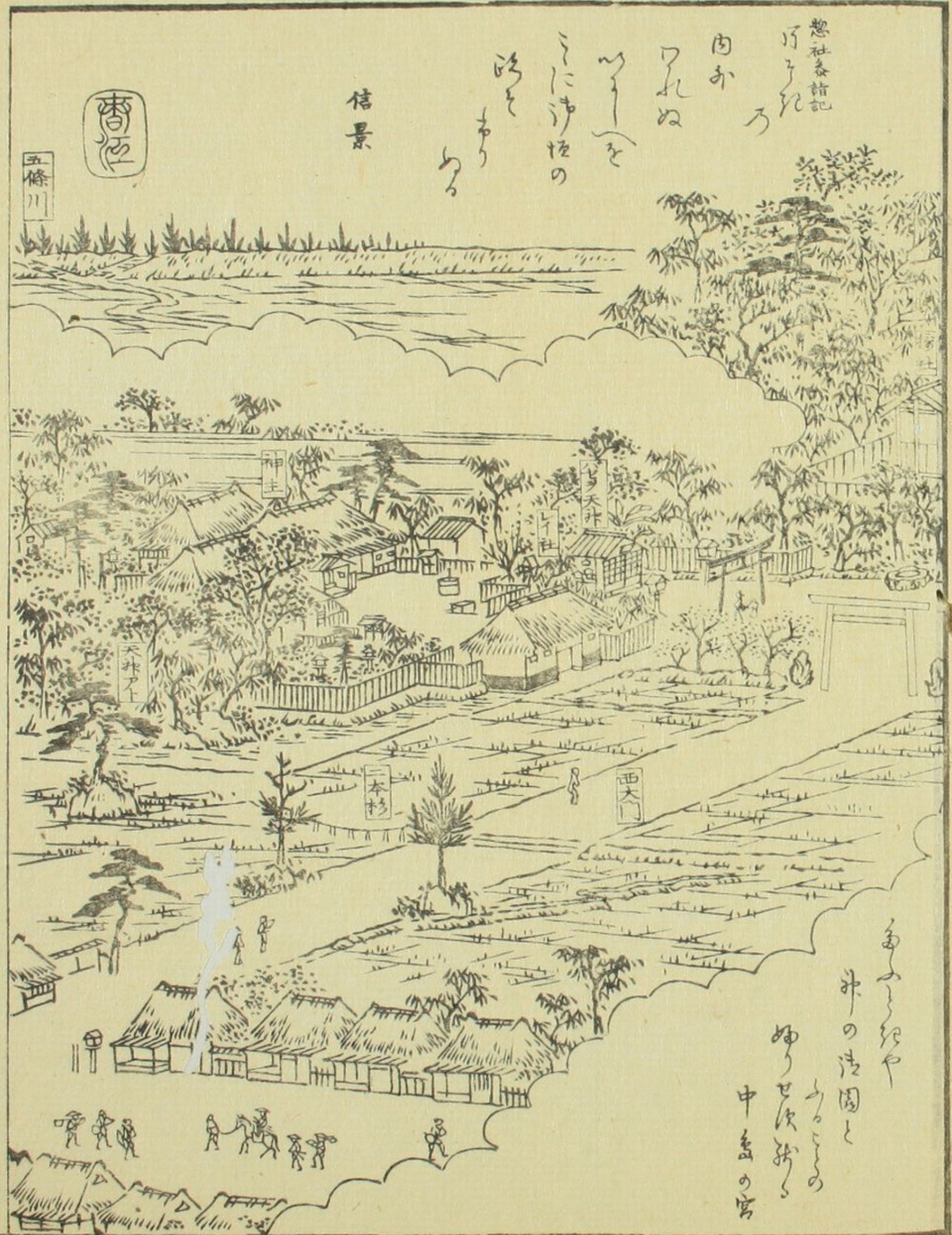


奉拜中島宮作秋並經
本居内達

中島宮の御宇に於ては、
 天竺の僧侶が、
 此の地に入りて、
 佛の教を傳へ、
 寺を建て、
 僧を養ひ、
 民衆の心を
 安んずるに
 努められたり
 云々

惣社名指記
行々記

内か
 乃れぬ
 心に沙汰の
 信景



香
五條川

毎年の記
 米の造園
 中島の宮

の三社少く山王上島當社もに御祈りし修ししなりけりといひ
當社も其時の徳文より又大改所との改所との造管寄

附の品等も神宝の數小入り ○攝社倭姬皇女社 瑞籬のうらにあり

尊瓊々杵尊の 船社 美濃造美濃縣主等 天官 天和中主尊 巴波天神

菅巫相とまろびり 性高院君當社(沖とあはれあり) 巴波天神とて連音の清とあり

芭蕉天満宮 近年の幼 鳥居崎 鳥居崎の

例祭 二月九日七月七日八月廿三日九月十六日

神寶 古假面ハむり 舞樂小用り 天満宮一代記画入巻物ハ朝日殿寄附

御頒御祈禱書付等あり又當社ハ古物二枚ありて一枚ハ日月星の三光に神保と

尾州名古野とありけり書画にも定まらば 尾州舊語畧に云ふ

七年八月清領町中追也より民誦と具行ハ津園神明の祥集と云ふ事ハ市の

飛移と云ひ又山田云々を記し 俗に云ふ 津園神明と稱ハ津園村の

実ニ希有の瑞より津園の所中を也より 津園村の地化して

と云ふ事より之に云ふ 津園村ハ 津園村ハ 津園村ハ 津園村ハ

興聖山慈見院

同所北市場にあり 徳勝宗部 妙心寺末代地ハ名古屋慈見寺の

朝日殿宅址

朝日村ありて今民居居らるるハ人ハ其基也 改所の母公ハ

浄念寺址

同所にありて名古屋吉田町浄念寺の旧地より 寛永五年 神君令津

三月印行の本紙より 系圖ハ見下り

名産朝日柿

田村小多く作し毎に數十なり地産に堪ふ其味より其色柿の赤くも秋の頃ハんり又その隣村ト云々作さるる又其味より四方に...

名産宮重大根

尾張大根と云々他邦小類ハカ... 尾張大根と云々他邦小類ハカ...

中島郡牛部首國就 桓武天皇奉蘿蔔云々... 和漢三才圖會に大低...

八月下種彼岸生苗霜後肥大味甘尾州官繁之産大者...

長三尺周尺半重可五七斤云々... 尾州の産小不及云々...

大和本草に蘿蔔尾州小種云々... 他邦小種子と傳へて...

日野菘の... 共に名産なりと云々...

日野菘の... 共に名産なりと云々...

形状非肥大味甜天下無根款宮重字與他村産殊...

花江戸住...

尾張地中... 大根 畑 麦林

大根の... 沙鷗

名産獨活

尾合村の... 独活と云々...

稚川兩岸の菘

尾合村の... 菘と云々...

琴音集

小比丘原の... 曉臺

の... 士朗

風... 白剛

秋の... 卧央

川... 麦圃

萩萩のおりきりやあやみの月

騏六

白木橋

白木橋 下御村のりて白弓橋もいふや伊勢崎よりある 傳へ云むり

伊勢崎と領より諸侯は橋とさういへに伊勢崎の山は浮びて
たひ居たりは橋とより白木のりて橋も一冊と射るり小牧岩の
旅旅小りとおしてこれとけり小調とせしむる其夜は敵の妻
小わやしき女一人来りて我夫とていひまをさしりしれと
つひつわたりに彼等の首の落敷てありととけり忽伊勢崎の雌
をくあつて飛去けりて是を差さめわめて翌年油木に此橋と渡らせけ
るふ又伊勢崎の浮ひ居るをば彼らとて一冊と射るり此度とれと
を雌を少くおの下に彼等のかいらとてとけり居り此度とれと
て寺とせしむる去年よりふん雌をいれりたりととせしむるやうと
危きとせしむる昔の菩提のり小一寺とてに建えり白弓山駕籠
寺と名づけ傍を居て彼等のあき跡と吊らりてり夫とて寺小

のりてゆふわたりとこれとけりて伊勢崎の廢一今は橋
のりてゆふわたりとこれとけりて伊勢崎の廢一今は橋

阿原天神社

阿原村にありて今伊勢崎より本國帳小從三位

堀江觀音堂

西堀江村にありて南本三十三觀音の一所とて伊勢崎より
とて天保三年四月より一寺とて觀音堂とてありて伊勢崎より

土器野里

今伊勢崎より土器野里とて伊勢崎より

新川橋

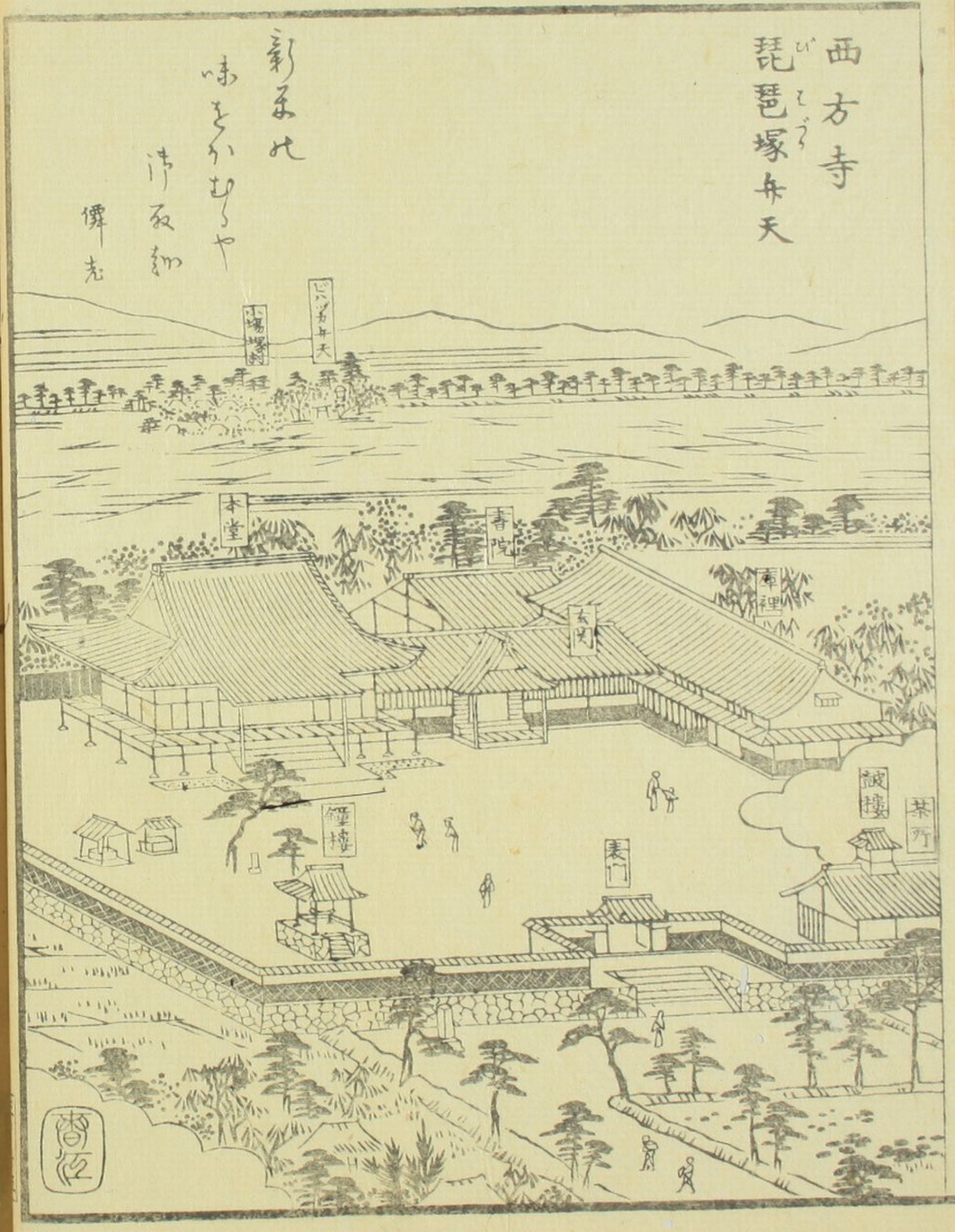
伊勢崎より新川橋とて伊勢崎より

駿河塚

伊勢崎より駿河塚とて伊勢崎より

伊勢崎より平町南須ヶ口契田一行道に大なる塚とありて
伊勢崎より平町南須ヶ口契田一行道に大なる塚とありて
伊勢崎より平町南須ヶ口契田一行道に大なる塚とありて
伊勢崎より平町南須ヶ口契田一行道に大なる塚とありて

西方寺
琵琶塚弁天



新茶地
味まかむや
清友和
俳老

中河原桃林

千部の位と侯々々々大平都婆と走々々信長ハ
情の大将々と近国まても少沙津一々々々

醉月園秋年

中河原村の田圃小うけ教百株に及ぶ林中勢至社あり此地在河川
新川の中河原の中河原の土地が花の段ハ府下の雅人多く林と出
待と候一和分と誦ぶくまの日記水さす
りもれおもひ成善に及ぶも多し

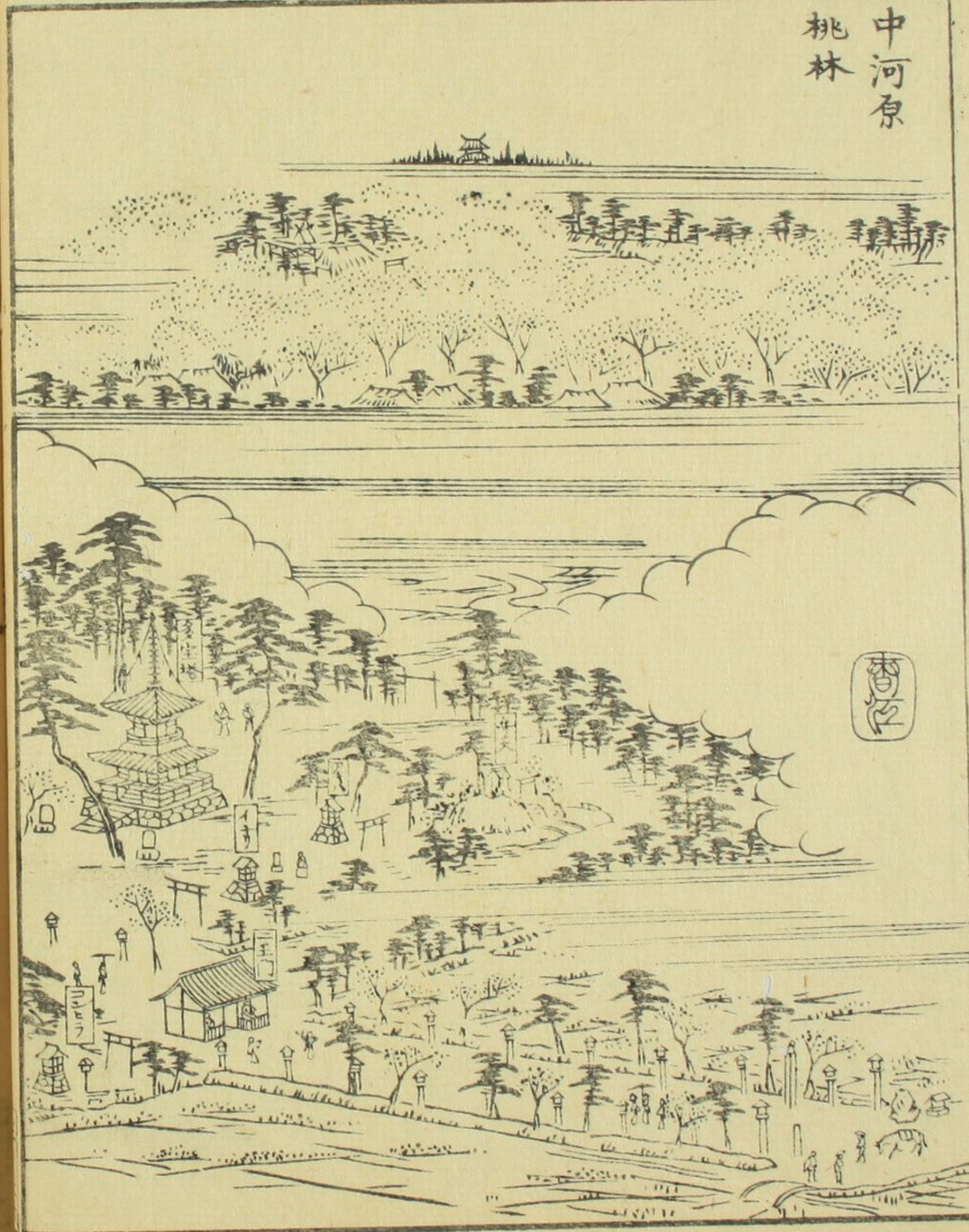
新川より河原に桃の花をみるありて友より人よりて見りけり花
をみるに桃の花をみるに日もなみ花をみるに日もなみ花をみる
りもれおもひ成善に及ぶも多し

春とて桃の花をみるに桃の花をみるに桃の花をみるに桃の花をみる
ゆて候の春とて桃の花をみるに桃の花をみるに桃の花をみる
たもれの桃の花をみるに桃の花をみるに桃の花をみるに桃の花をみる
とめて見むに桃の花をみるに桃の花をみるに桃の花をみるに桃の花をみる
嘆きよ桃の花をみるに桃の花をみるに桃の花をみるに桃の花をみる
春とて桃の花をみるに桃の花をみるに桃の花をみるに桃の花をみる
弘化四年三月二日道玄より訪ふ前の川小宮とてゆくとむ舟より
わらう中河原の桃を見る

ソノ代と建てるに小宮とてゆくとむ舟より桃の一ひり 正詔

け みるハ 桃の花のきあけり
秋磨
蘇竹の透石とみりのみるにやむにわたり三月七日中河原とて
所小竹の透石とみりのみるにやむにわたり三月七日中河原とて
みるに桃の花をみるに桃の花をみるに桃の花をみるに桃の花をみる

中河原
桃林



麦浪含風翠
桃花耀日紅
雞声與人語
總在彩霞中
澤田眉山

長谷院



長谷の松の
くさめあけら
花の夕景
道直

意中
花
又中
堀山
芝丸

みかた古物... 竹の子の頃... 世と世ともいふ... 竹の子の頃... 世と世ともいふ... 竹の子の頃... 世と世ともいふ...

名産 竹の子の頃... 世と世ともいふ... 竹の子の頃... 世と世ともいふ...

二ツ間 下小田井村... 世と世ともいふ... 竹の子の頃... 世と世ともいふ...

庄内川 西岸 櫻樹... 世と世ともいふ... 竹の子の頃... 世と世ともいふ...

官櫻 八千樹... 世と世ともいふ... 竹の子の頃... 世と世ともいふ...

正詔... 世と世ともいふ... 竹の子の頃... 世と世ともいふ...

小田井城跡... 世と世ともいふ... 竹の子の頃... 世と世ともいふ...

千代徳丸の幼年... 世と世ともいふ... 竹の子の頃... 世と世ともいふ...

信長記等小... 世と世ともいふ... 竹の子の頃... 世と世ともいふ...

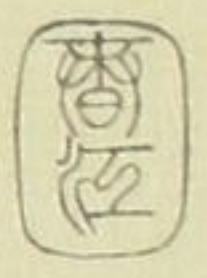
庄内川の花見

傍水總山櫻春深
花正明長橋三萬
尺恰被白雲擊

阿部松園

橋上爭看堤上
櫻一川春色是
多情花陰有曲
人聆否自奏琵琶
流氷声

畫屏道人

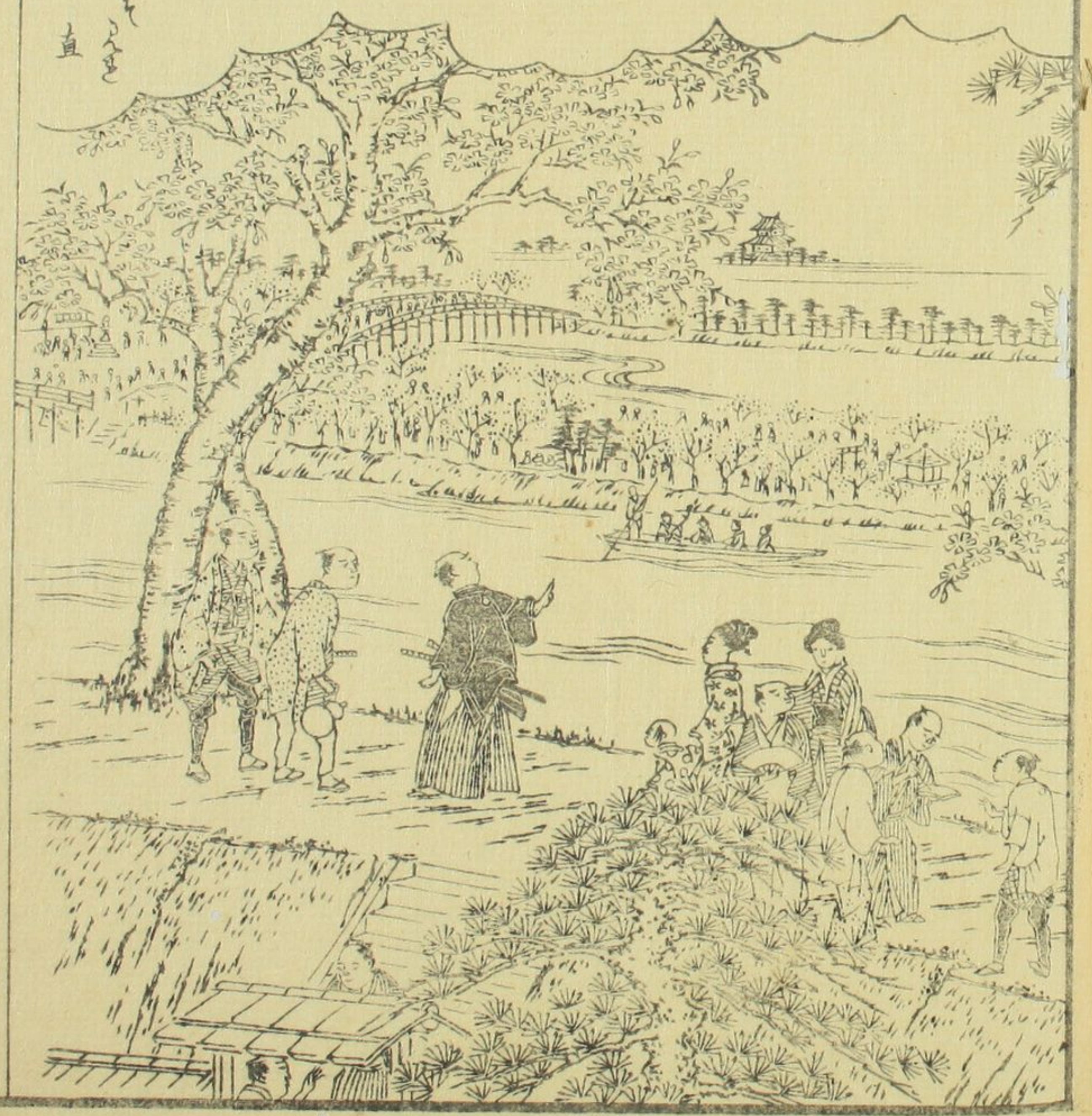


市人もさか
おれ桜も
けみせけ
花のさか
うら

仲敏

きりくはつゝ
とくはくは
きりくはつゝ
もろ
首岳

桂のさか
きりくはつゝ
きりくはつゝ
中げ川の
道直



彈正左衛門尉久長の二男丹波守常寛との子兵部大補寛故其子
太郎左衛門信張等より尚博との子と云ふ

尾陽雜記の小田井村の入口
左の方にあり南に少の
丘尾の中是城跡云々あり此撰者水野金吾清遠守の寛文頃の人なり其頃より其頃まで
南勤王馬面等にかかぬといふ名跡あり小田井の庄屋の所なり實相院門跡長譜
小田江梅花元冬藏に崇皇との子於多井などといふ事あり今上中下三々より彼定家
卿のあつたの事と云ふこれ名もつていふ

龜岳山宝國寺

尾陽雜記の清和天皇名古石西光院未弘治三年の創建なり開山の聖光上人
といふ名も阿波陀本傳の志心信都の作矣室中将姫威得生髮阿波
陀寺品いわれ

神明社

尾陽雜記の清和天皇名古石西光院未弘治三年の創建なり開山の聖光上人
といふ名も阿波陀本傳の志心信都の作矣室中将姫威得生髮阿波
陀寺品いわれ

渡河山西方寺

尾陽雜記の清和天皇名古石西光院未弘治三年の創建なり開山の聖光上人
といふ名も阿波陀本傳の志心信都の作矣室中将姫威得生髮阿波
陀寺品いわれ

と武藏国豊島郡荒木の住人安藤兵部少補光季といひて武門
の家とお叡山に登り難髪といふ云理とも静康僧都小隨從一頭
密西宗と譽び得て博識の譽あり其後諸國と經歷し尾張ふまり
てある寺にありしが親鸞聖人の帰依し三州よりあるにびく師也

の約と云ふ名を是澄といふ夫より聖人大浦郷小移らさける小水者
川の急流たやう液といふこと七人の信徒身命と惜ま原川の瀬踏
して聖人と後いふとあり是より瀬部七門徒といふ
合せるとあり高ちといふ尾陽雜記の清和天皇名古石西光院未弘治三年の創建なり開山の聖光上人
といふ名も阿波陀本傳の志心信都の作矣室中将姫威得生髮阿波
陀寺品いわれ

授與の品今も寺傳すまゝと云ふ極られし
百合といひ傳へて麻子百合あり西方寺百合といふ世人羨むなり

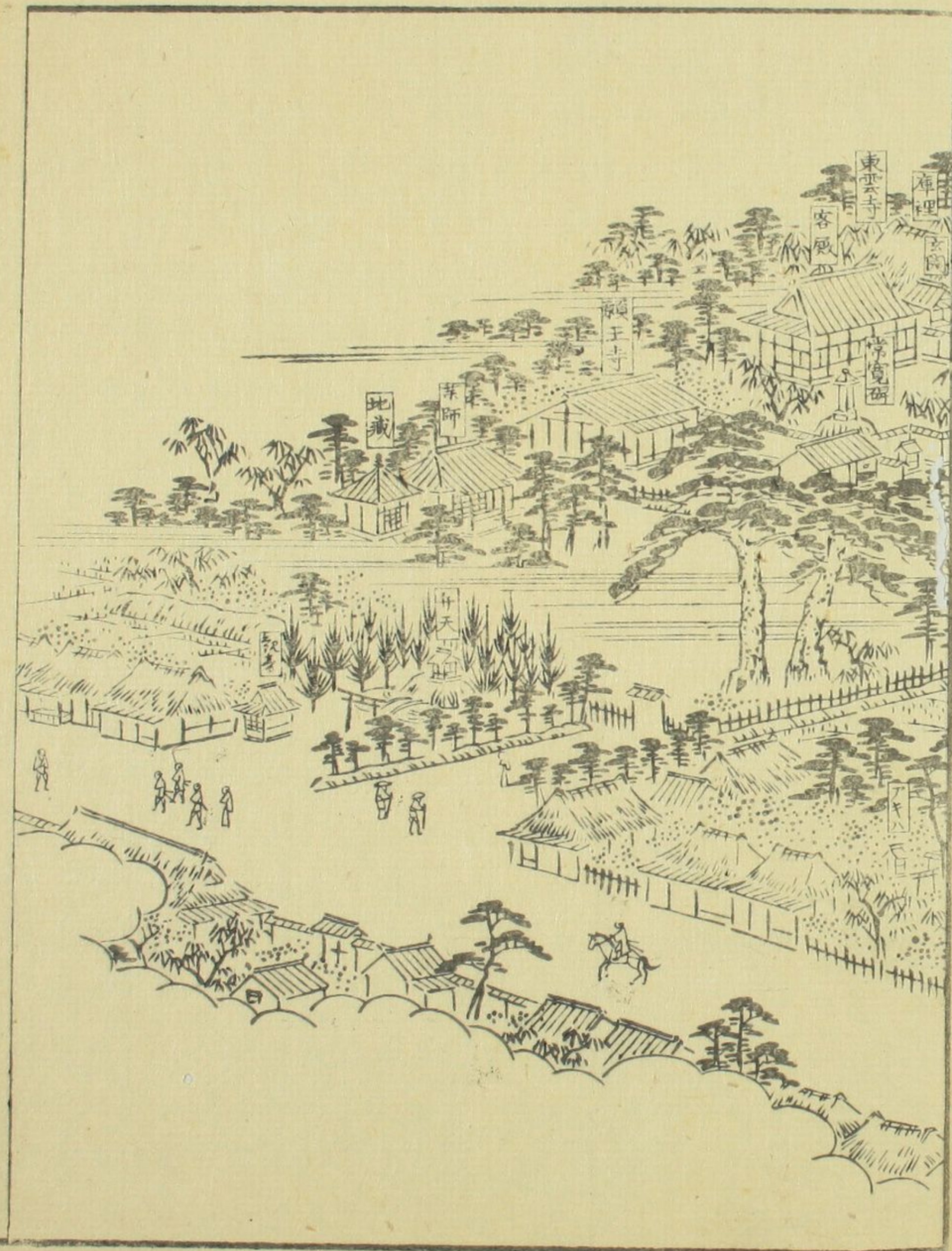
名産壘表

尾陽雜記の清和天皇名古石西光院未弘治三年の創建なり開山の聖光上人
といふ名も阿波陀本傳の志心信都の作矣室中将姫威得生髮阿波
陀寺品いわれ

琵琶塚

尾陽雜記の清和天皇名古石西光院未弘治三年の創建なり開山の聖光上人
といふ名も阿波陀本傳の志心信都の作矣室中将姫威得生髮阿波
陀寺品いわれ

井矢橋氏の産なりといふ一師長云の撰まといふ



東雲寺
願王寺
五社明神

香印

速策馬來敗軍戰死其處蓋實相院是父寬故
 復歸城小田井同十九庚戌二月七日卒蓋金童院
 矣守四代孫而六郎信張寬戰死之後為長公與
 波守當世之後從之改諸國軍元龜元年信長公與
 長井長政朝倉義景戰於江州相戰賜田掃
 部三井出羽守等討取四百里皆從連年勲功賞也
 天正乙亥補和泉守護職是皆從連年勲功賞也
 信長公乘武尊之費為秀吉公成囚人被預為保氏
 天正十五正月蒙免除入洛于日於大津卒蓋青
 以淺野氏賜米二十俵同九月二日於大津卒蓋青
 音院于時秀吉公以那須氏賜時銀百枚也
 織田右京進富田長島討死雲頂院于時郎從
 山端正甲戌九月於長島討死雲頂院于時郎從
 二男織田千代信氏為田井城主早世瑞光院兵
 也忠辰於信忠前元服賜忠字長光也因信
 氏早世復為小田井城主信長賜之流因
 州至文祿三年免許拜家地仕秀吉賴二君慶長
 十一年於京都幸許景德院于時秀賴公儀有故
 淺氏賜賻銀百枚其嫡子津田左馬助知信有湯
 自是改津田慶長年中十四歲而奉仕尾陽太守秋
 於濃州二箇所采地拜之奉仕尾陽太守秋拜千
 石正保二年中卒蓋木知院下奉仕尾陽太守秋拜千
 室永二歲次山島七月十日

星大明神社

上小田井村にありて大己貴命天香々脊男神牽牛織女と相敬にあつた初儀の
 年月洋々、棟札に曆元四年巳年十月右近中將藤原實秋中興あり
 神明社天王社金毘羅社秋葉社あり例祭七月七日ハ七夕と執り、秋葉社ハ又
 八月廿三日ハ秋葉社あり祠官小島氏

慈眼山大聖院

同村にありて真言宗中村万住寺末天文十八年織田又右郎信長創建
 大聖院と云ふ大聖坊といひと元禄六年今の号に改む本号延令北條ハ弘法大師也
 ありと云ふ也

江北山法源寺

同村にありて法隆宗名古屋改秀寺末天文廿二年五月津田又大郎の母陽徳
 院殿心庵了悟大禪定尼の建立なりて寛文十三年三月卒無事と云ふ也

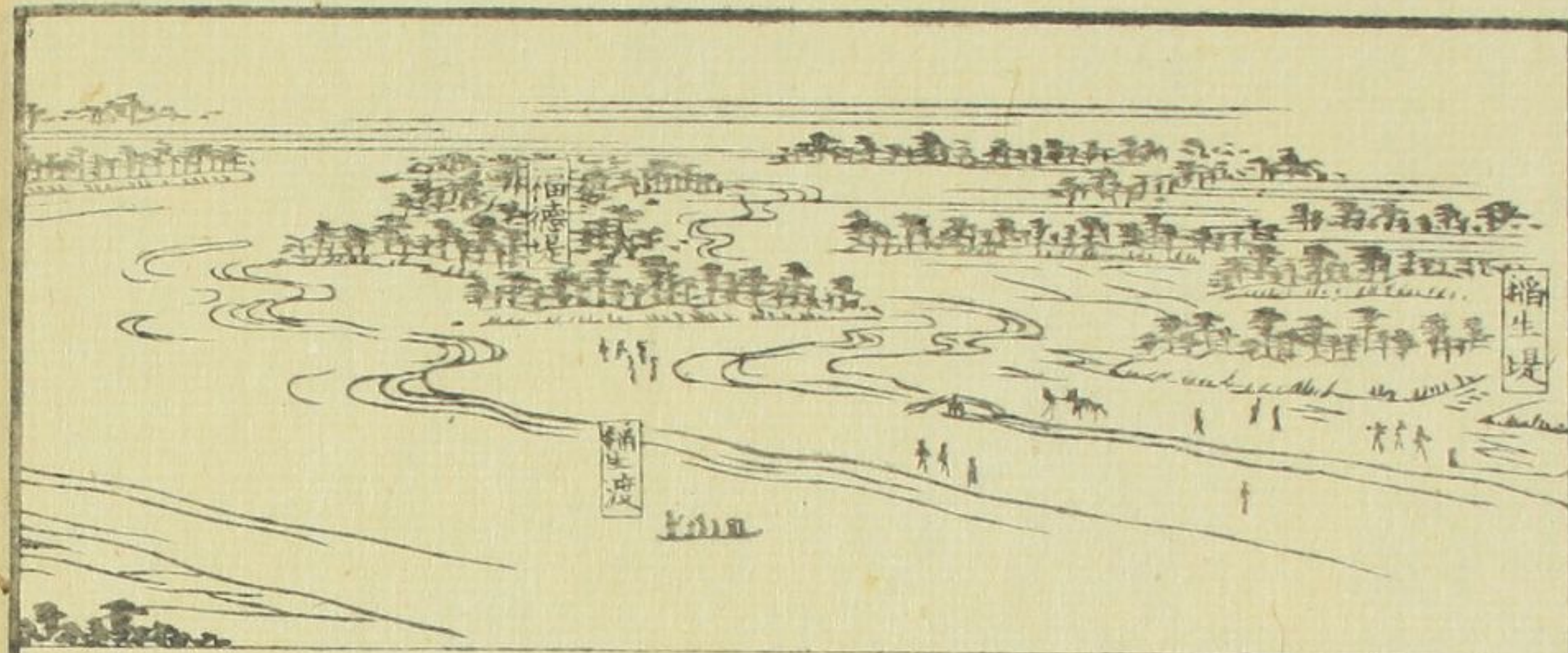
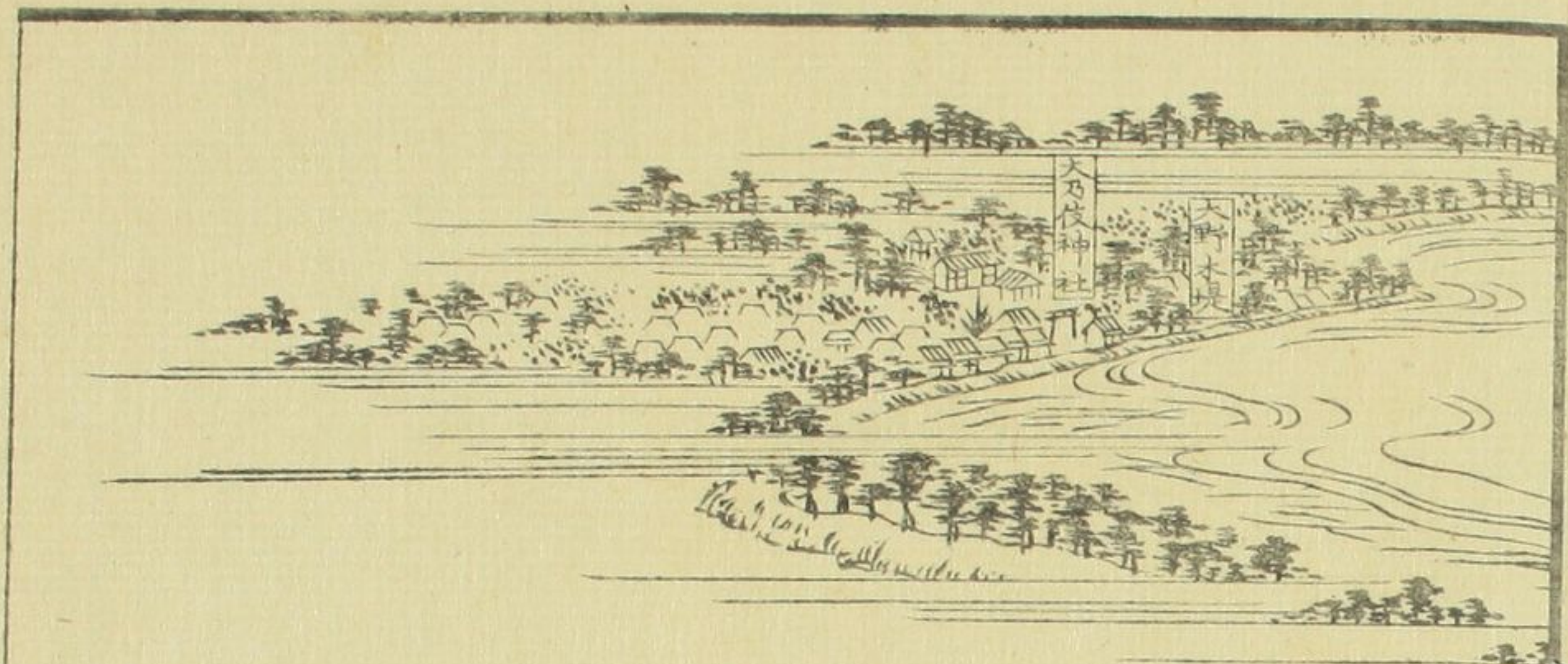
峯光山長善寺

同村にありて一向宗東照宗都布山の直末ありて天文八年の創建なり
 齋の石碑ありて即菴ハ府下の布人ありて秀年及び画と云ふ曲全と名と等と云ふ世に
 成名家時代指掌等に載りてお後す近年彫刻より所の續編書画一覽ありて日紀年大
 織田信益の末裔ありて天和三年同生女修業して画と狩野常信にそひ画名ト黄狐良齋と
 保六年十月廿七日達原新五十年の退善と云ふと高宗依勅り内親を郎と名づけ一茶碗と冠
 引と云ふと云ふりて即菴と稱す別号源長毎業結菴具三曲成堂信職齋と云ふ後掲
 の前に掲居一室曆十三年未土月六日八十一ありて段次隨筆茶道筆記ありて百卷にありて
 自画賛物若干いかに絶妙ありて天室の教に入ると

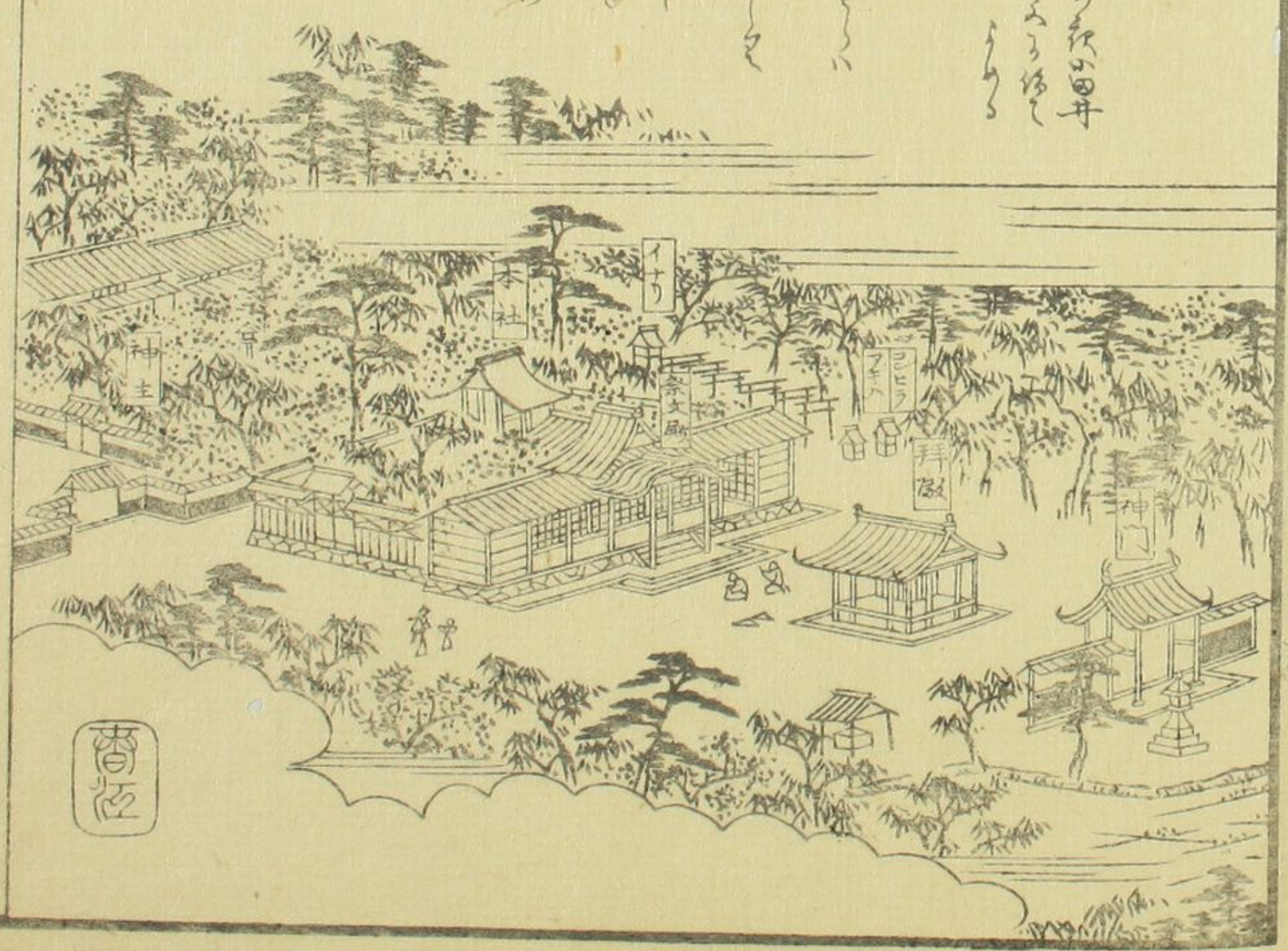
東岸居士舊跡

尾陽村宝琳寺境内にあり又其南の田圃の隅川に後より小橋と東岸居
 士の橋と云ふ橋曲拾葉抄等に居士の号ありと云ふと尾陽小橋ありと云ふに足

東雲主盟 盤舌座 藝化

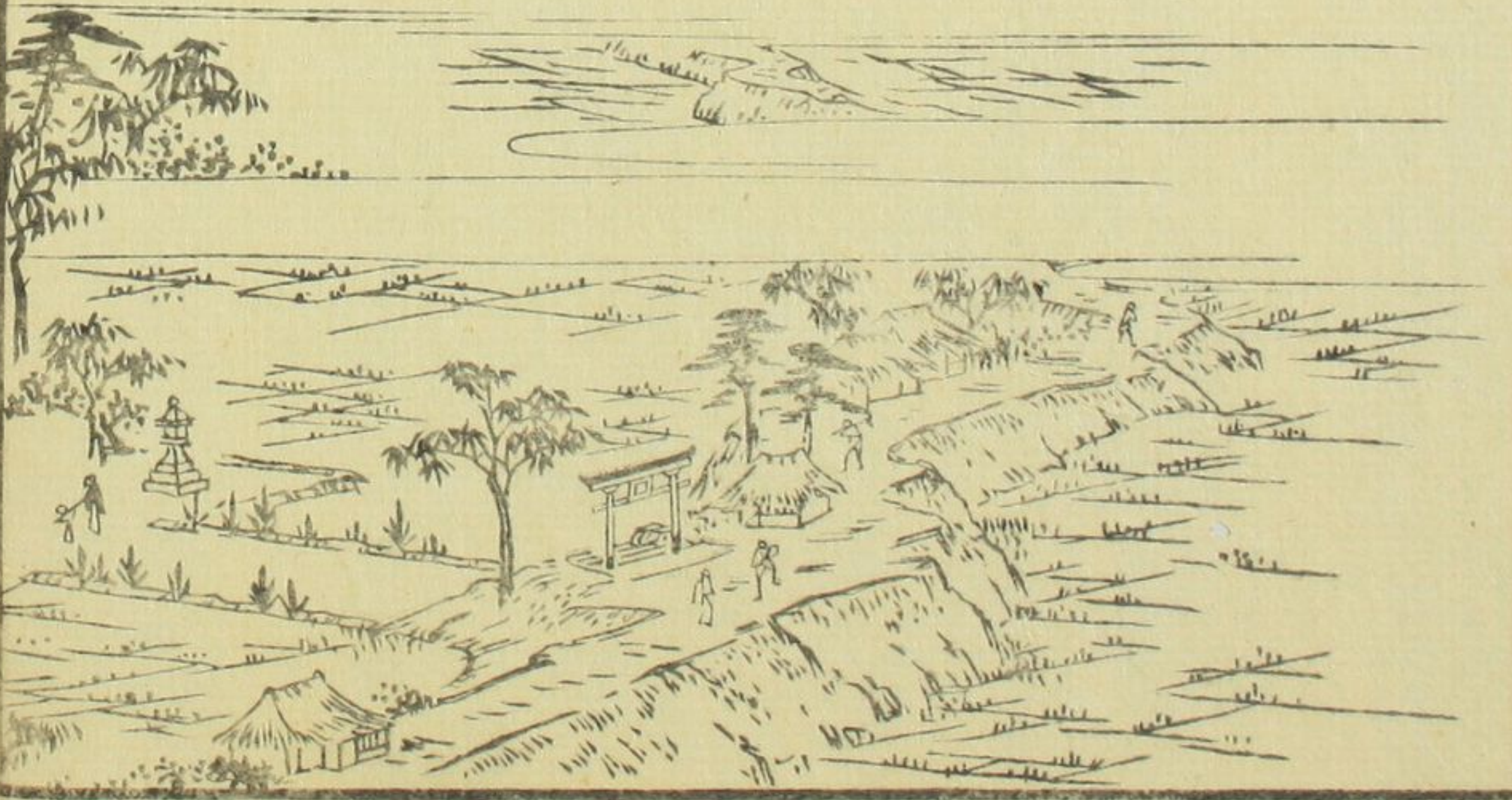


大乃伎神社
 大乃伎神社
 大乃伎神社
 大乃伎神社
 大乃伎神社
 大乃伎神社
 大乃伎神社
 大乃伎神社
 大乃伎神社
 大乃伎神社
 大乃伎神社



香

星宮
 大乃伎神社
 稻生渡
 星大乃伎神社
 星大乃伎神社
 星大乃伎神社
 星大乃伎神社
 星大乃伎神社
 星大乃伎神社
 星大乃伎神社



えんげりいむりの街道... 柳に... 夕日... 白梵巻

新福寺村にあり天台宗... 嘉禎元年四月...

稲生山新福寺

新福寺村にあり天台宗... 嘉禎元年四月... 藤行信祐...

松登山圓福寺

田村にあり高田宗伊... 嘉禎元年四月... 藤行信祐...

正三位供秀卿... 遊園福寺... 寺稱圓福擬祇園地...

境内小坂の初め... 人待も多くなり... 遊園福寺...

寺稱圓福擬祇園地... 兩痕畫面溪邊知咫尺遊峰戲蝶樂春現... 河村益根...

伊奴神社

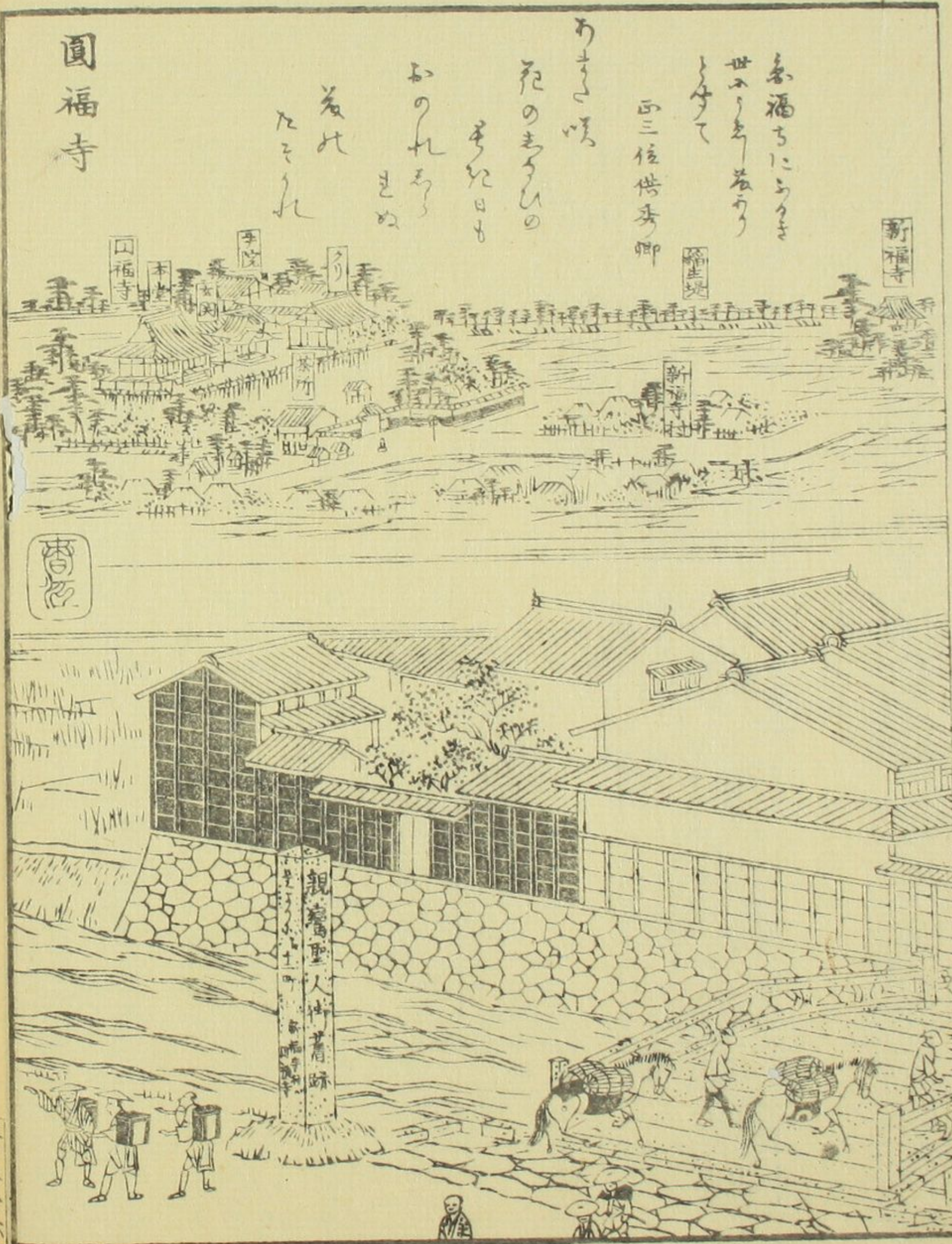
稲生村にあり今三尊... 伊奴神社本國帳に従... 二日目津至...

稻生合戦

田村の志今田圃... 織田信長公の清原に居り... 年信行舎尼信長公と討て...

わやぶ先奉命是より清洲の東名塚村小要害と據りて、佐久間
大孝と入至守らるる。かくて長尾隊は、多井川、洪水の折を
待清八月廿四日の早朝、柴田権六一千餘騎、林美作守も亦、
少て、赤松名塚の城と攻撃せしめて、押寄より、城に構へたる、
抱へるや、ついで、大孝、水練の連者となりて、於多井川と渡り
せ、清洲小告し、信長公、即時、小出馬し、と、や、り、て、
多井川の大水と、交戦し、柴田権六、西山と、し、て、
公の勢、川、越し、僅七百騎、も、柴田、林、が、勢、二、千、に、及、ぶ
多人、救ふ、と、危く、も、ま、と、け、き、
田造、酒、丞、田、勝、左、衛、門、と、武者、大、將、と、て、柴、田、が、勢、に、向、り、
孫、助、山、田、治、部、左、衛、門、と、又、武者、大、將、と、て、林、が、勢、に、向、り、
山、田、が、勢、に、林、が、人、数、と、戦、ひ、が、負、色、に、
遂、に、孫、助、も、治、部、も、討、死、す、
と、

て、働、き、け、り、と、表、二、三、馬、の、通、り、
分、り、上、げ、る、
旗、本、の、備、つ、と、
今、こ、も、
小、隊、の、合、切、り、
り、て、
林、が、首、と、討、死、す、
取、立、
扱、又、
勢、と、
討、死、す、
と、
ぬ、か、り、
と、



圓福寺

新福寺にふき
世より名を
うけて
西三位侍安御

あまの
花のまうひの
まうひも
ふのれあ
まぬ
あれ
たそれ

作てお幡ち山まで追討せらるるに二百餘騎を討けける雑兵も

首級七百餘を持て清洲へ帰陣しむり

稲生堤

同村のわがあり大坂東への舟渡りありて稲生堤よりまきの頂川府下の松人群来りて
風とわが稲生堤のまきの舟にまきの舟を破れ北より佳境ありて古人の清か
とま

伏越

同村のわがあり村境あり福徳用水川を庄内へ引くより矢田川堰も三町
解の地の下に七八尺の大木と二節埋り物せし長ねなり其大造より半他は稲生
二節の川木の南のて為合一篇と
うらすれりりり思ふ川を

三寶山觀音寺

兒玉村あり曹洞宗名古公永安寺末彦長八卯年鏡屋首座の建立ありて
其後永安寺二世孝國厚和尚と潤基と次本寺を聖觀音の國君山田即齋
小倉より以て彫刻せしめて伊予附ありて本縁あり鎮守神明社元和四年十月十六日赤雲一ひり
南より来り當村の大日堂の前にまきり其所を足れば伊勢神宮の大木と水馬一軀ありて
村民相議して社を定めて二物と納りて神明社と名をなせり 國祖君あり時此地に社ありて
當山と伊勢山と名づけ又社の名の川に橋をわきませておのせ橋くま多し其川を後におせ川
とよん元禄十丁丑
年又修造あり

丹羽五郎左衛門長秀

母長政の子息兒玉村より生る知名万子代元十五歳より信長公に仕
一方の大木と養り向ふ所ありて廣勝すくくありて元龜二
年近江の佐和山の城五万石をよみ天正三年正月信長公宛家来の武士の古き家の号をよ
て家人等に名をよせ長秀より惟任と改めらるる公より後母叔小復す公年信忠
許等ありて信長公孫三法師殿と君とありて信長公孫と長見とありて長秀長孫國と近江の
滋賀郡高島郡とありて信長公孫と長見とありて長秀長孫國と近江の

平手政秀宅址

田村より今城の土居とふ
享和の頃ここに碑とあり

改秀の中務大捕より信長
公吉法師殿と稱し那古野の城小居より頃父徳後より林
新五郎ともいふ家老とておぼえられりかくて信長公十六歳の
頃父おぼえよりいふ朝書武藝をせりし他事とてこれ我々
くして行跡よりいふ先考も不孝なりと改秀と嘆き年月
練奉り又五箇の練書と捧げりとも危角字位よりいふ改
秀思ふやう一度いふ家老も治りあらんと尼中女など乳哺より
守之れども弥頼如げもさう君臣の間も不和ありけり只自
害して見せしむる清心ともいふされりと思ひ定め改秀が領
地の志賀村へ引入り家老山田久内とて之を者と使して沢彦和
尚一書とつくり練書逆耳故某自害仕候さるる心とせり
床のやいりんとて送り送る床の腰とかけ下刀刺て信長公と急ぎ
呼ぶべしといふれりこれとて急ぎ公へかくし進中り是とて

給ひし馬を返つけり汝何とて斯に申すやとて
取付まゝ床より下りて清心とて何事とやありけん暫く之とせり
公信長公今日より汝が美見に成りて一病を生じしとて改
秀是清心見しとて腹十文字に掻切り取借りて死せり時
天文廿三年甲寅閏正月十三日の曉行年六十二歳より信長公
死骸の抱付て清心嘆かざりあり古今追腹と切者ありしと
いふ君の清心とせり自らに自害せり和漢の無双の勇士と
惜まぬ人のありたりこれより信長公行跡とて終に草創五
君の一人とてありありいふ改秀の忠義ふりたりかくて信長公
沢彦一清後者ありて我無器用と日頃練りて用ひたりけり改
秀不慮に切後せり孝父に難しより力を盡しり引導等
頼むりありけり則法名功菴宗忠と付て下炬の頌に曰忠肝義
膽太稀奇横按鎖鉚忘所知末後宰關錢爐歩一舉々倒五須弥

非地... 延喜三所の本地堂... 延喜三所の本地堂ありやわらへんといふ

慈眼山成願寺

成願寺村にあり天台宗福徳村聖徳寺より律教をとりて行基作の十二の頃の古刹なり... 延喜三所の本地堂ありやわらへんといふ

味鏡村

小牧街道の村なり... 延喜神名式又本國帳に味鏡とあり... 康平二年造内裡段

味鏡神社

味鏡村にあり... 延喜神名式に味鏡神社本國帳に従三位味鏡天神と見え... 官社なり

武甕槌命

菅田天皇の六所なり... 神輿殿拜殿鳥居あり... 味鏡神社にあり

味鏡山護國院天永寺

因村小あり真言宗大願真福寺末

文明十二年の天永寺縁起に鳥

羽天皇之御願西弥上人之草創天永年中開基也蓬萊宮之末

社六所明神鎮護之靈崛瑠璃界之本主十二願王接化之梵場也

安食柏井の兩庄とも願... 七堂十二區の僧坊儼然... 古刹なり

五百年來の兵革に零衰... 山号天鏡の池小附會して味鏡と名づく

るに... 天正九年辛巳正月郷民議して再建して舊刹小

復まるるり

○本尊... 聖武天皇の御宇行基菩薩南所に末祀あり

中心小あり納り精舎と云く... 茶所もと名づけられ

寺室

大般若經六百卷曆應元年九月八日足利左兵衛督直義主の納り所

龍池

龍池... 古跡なり... 味鏡の池小附會して味鏡と名づく

岩屋堂

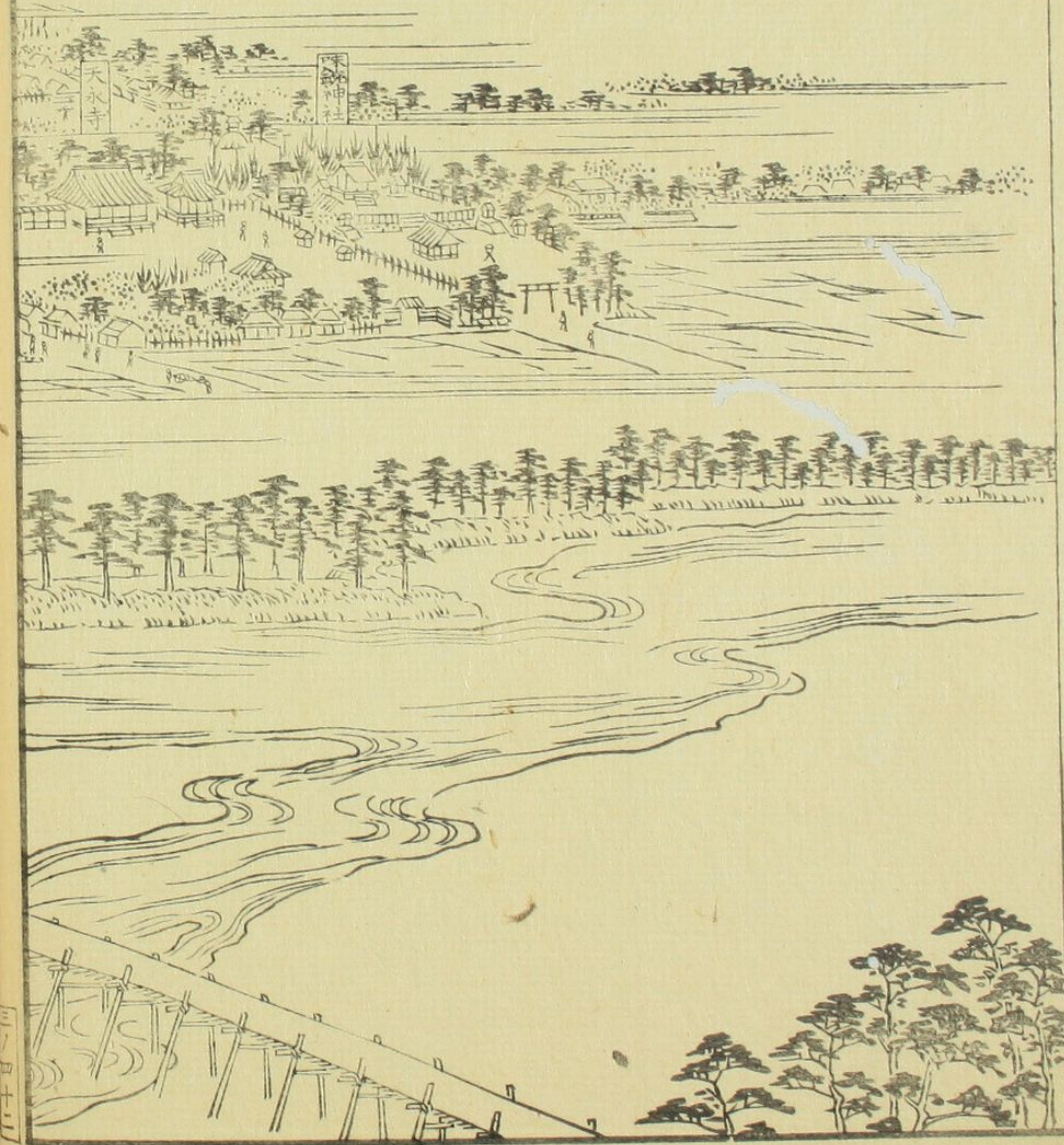
寺より北の方敷所と云く... 古跡なり... 味鏡の池小附會して味鏡と名づく

所より... 天澤... 織田真紀に天澤者宗天台再開

神主 松岡氏

味鏡神社
天永寺
味鏡川

水上ハ
君ヶ敷に
勝川の
ふくれて



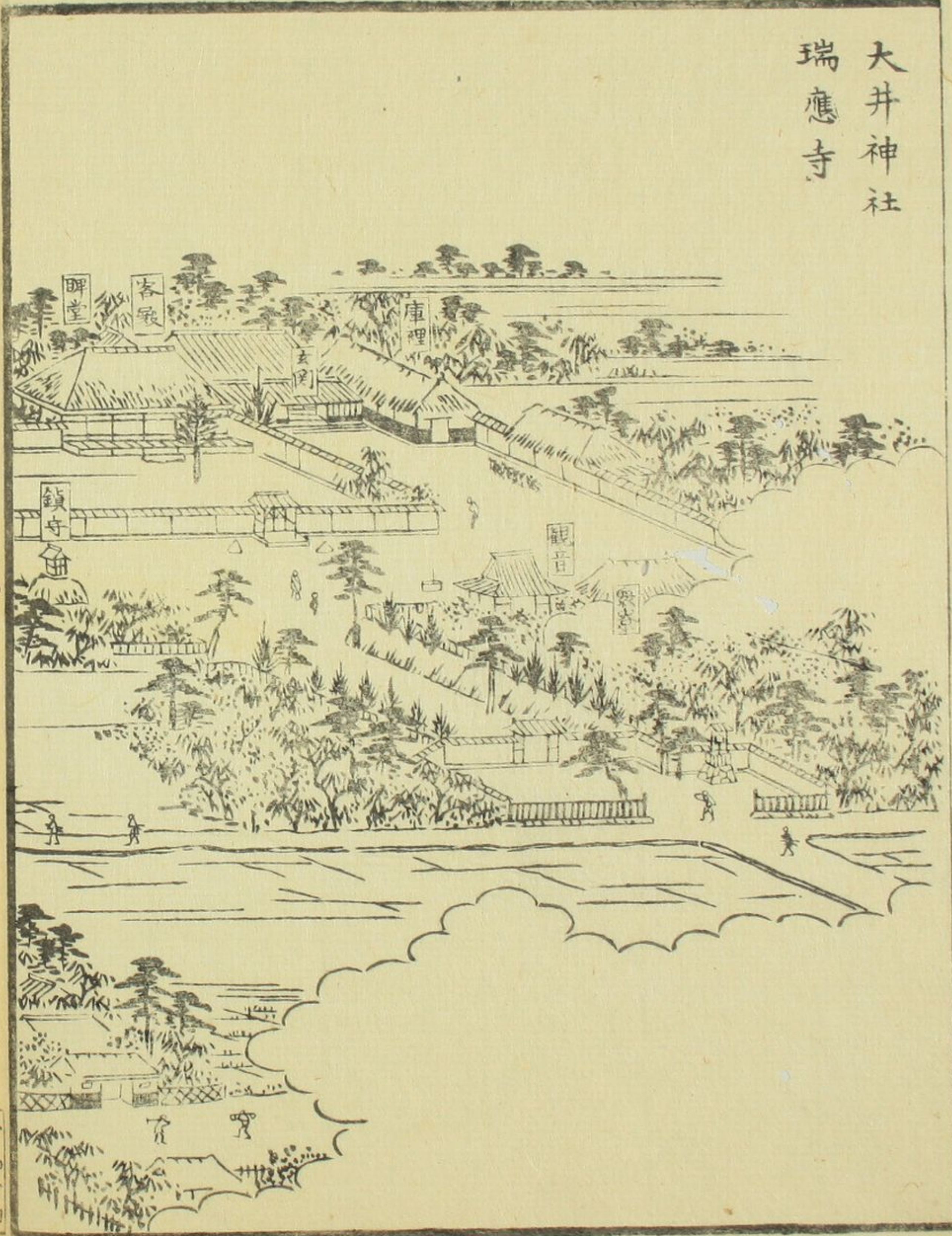
清く
そめり
市代
柳澤維賢

稲の香に
里ハろと
波名
鶴史

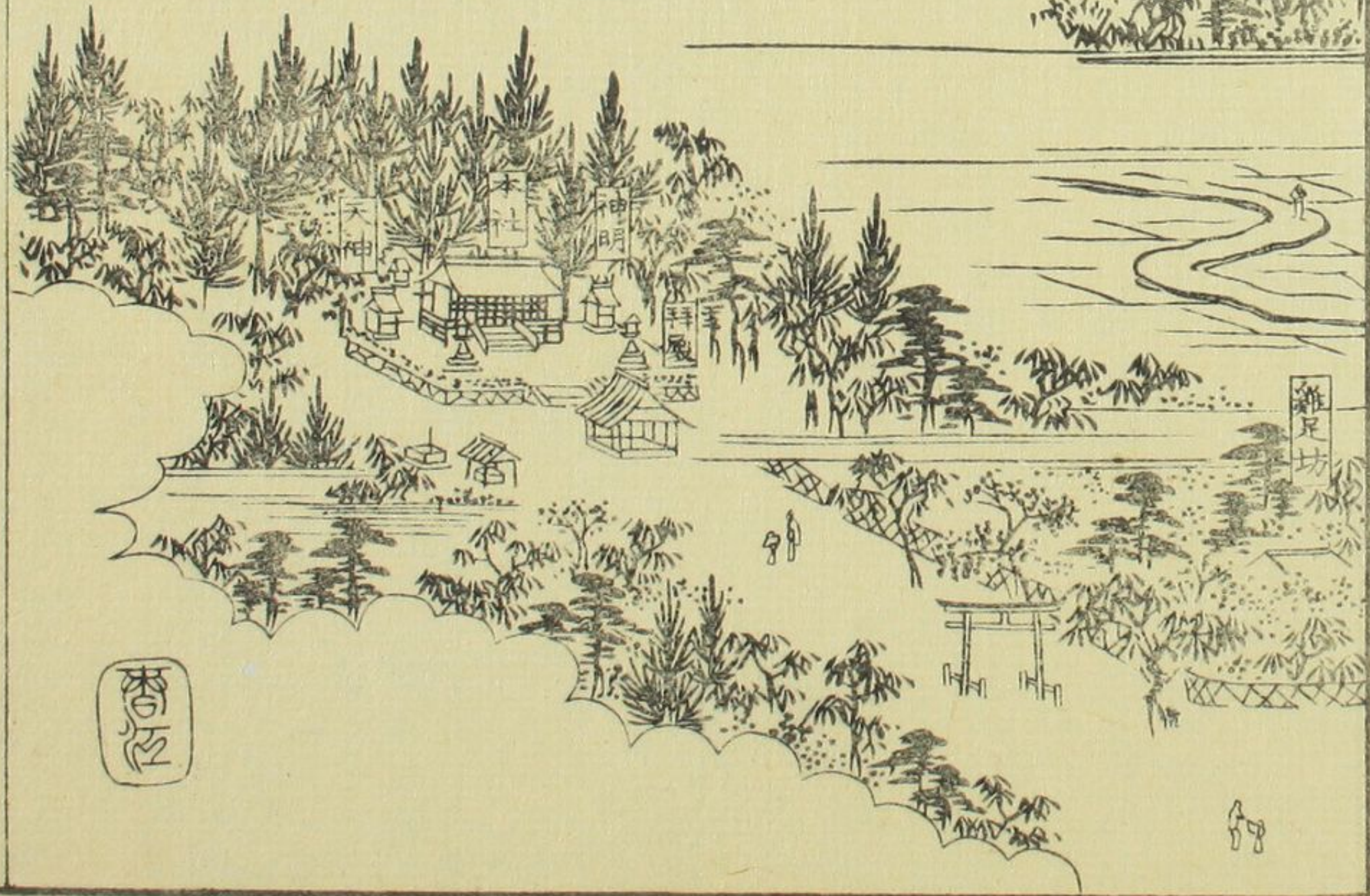


香

大井神社
瑞應寺



傍流のふ今勝をさすめを山と里のハ
 又村のふふより山と里のハ
 宗基ハ長谷川大炊助為高を奉行して
 永享八年正月七日辛巳法名ハ月山宗田
 と号せり是ハ裁中官方石馬氏ありて
 海の中島山に入つて里に徑りて今
 村其城地なり一町余あり 嘉永 府下此
 石馬家あり



多しりし其夜近き山より法壇多く後出でて山陸おびしき岩と其ありりの里にも
新し下理段して大あきううぬ今荒井舞坂のありけり今切の海見うりきて宗院が言
と信より所を迫ける者今と助りけり宗院が告い童神の加護うんくひうりしとれ
よりうりてお前おに彼が名とありて水元の恐とありしとひ焼くまうりしとあり
もわやき流してけり俗傳の久しきいふまうり
まにまうりて連うにありまうり坊茂元もけり一法うり

小高園天神社

三四村小あり今白山と称す本國帳に從三住小高園天神と見ゆり
國帳集説小和名抄にのせり春日部郡高苑と高田郷とあり賤小
手巻に云高田寺村白山大明神大同二年建主とあり社人の町田敷復し
あり尉大飛出小飛出牛玉板に善光七癸亥年九月九日と銘あり然ども真偽洋々
元年建主とあり是神宮とあり

瑠璃山高田寺

日村にあり天台宗也四密院未大同年中傳教大師の開基とて七堂十
坊あり二玉門空塔觀音堂法橋あり詠うりてあるの陸い今名古原の万ねきに
ありゆりハも多しりしが今退燒せりなる某師の善徳い傳教大師の作十二本
持ハ安所流の伝と
つひ焼く

大雲山平田寺

九坪村小あり曹洞宗
白坂雲兵寺末
あちハ平田村の領主平田和泉守
豆守 香火の道場ありとて天台宗うりて慶長九辰年快岩和尚再
真一其師居雲和尚 本山雲兵寺
十四代の傳と
今の宗に改む古に
位牌ありて平田寺殿前和泉守麟岳宗竜居士とあり快岩ハ其頃

道德のすゝありて寛永三年雨と祈りて号のまじ自作の謡曲小詳

あり○本尊

阿弥陀の本像
真心禱都の作

鎮守

黒池竜神高田寺村の竜神と雨乞の後効法あり
黒池竜神の謡に諸願成就のる降の表に

寺寶

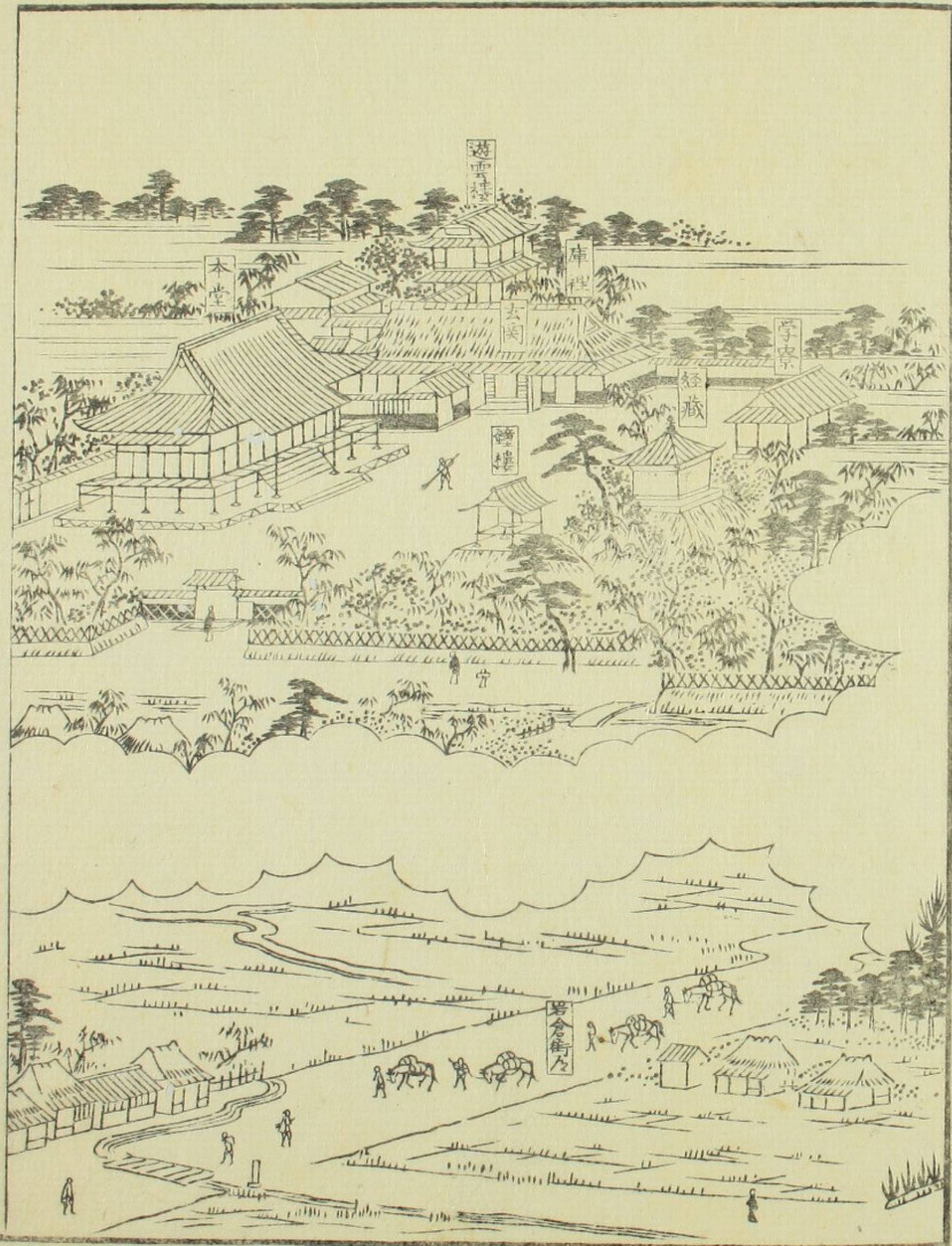
佛法の字漢并し未代まじもまじりて作りし小池の中島にあり

黒池竜神 謡曲一卷快岩和尚自筆あり奥書ハ曰是竜神教化之書也非狂言綺語雖
不可為謠未代之世俗參禪學道難至陪故成誦之念意謂口今生慰來世之便菩提種
衆生成佛之可為直道是方便之說也下村宗利入道章句付申候子細致注候得共長
敷故與書此三輪神録曰立田不紅葉が神録云此謡ハ雨が竜神之可為全神者也 水
無月五日 我法ハ身世にむる黒池の深のまじ風うりあぢむぢ

快岩義雲とあり又自筆の板本も稀くはに廿小傳いあり 黒池 苗村の東方又地
て長手他よりされどまじり九の降の多化といひうり定永三年の夏天下大に旱りけり
快岩和尚農人のけりふり又 國命と奉りて六月五日隣邑久地中村の黒池小池に
竜神に血脈と授けて祈りたるに即時小大而降て國內うりひ万民のよろこびありあり
快岩とあり其年と謡曲に作りて下村宗利とあり者に章句の曲節とつけしに諸人かうり
つせり 謡の文句ふり他小池に清西の法と修りたるに竜神老翁と記し酒徒とあり夫
より大なる頻りに降稼穡ありあり万民歡ぶるに作りし君山翁の賤の小手巻に黒池の
とありるまじり云村民定永年中に鴨他とありし二間がの向し師の蛇と叙す其後と而
りて大なる鳥蛇とありのありて一病に卧とありてありはありりむりハ竜
も位

月峯山松元院

同村にあり曹洞宗日可平田寺末中世の僧傳連分とあり一人とありて永
九坪松元院に趣けり春と送り夏と送りて神送りあり中のみ妙國寺宗直
かま(別名)日とありしに苗田出羽守息酒ありし小碑をまじり明日の一行に 曹洞



平田寺
林證寺

到平田寺

月坡

僧訪僧房直入門推
敲今夜西空論他時
錯問平田路稻熟秋
風一樣村



声なき門田

う那

十所社

目村あり伊勢春日八幡の七社と云ふ事あり十所して永禄二年吉所の地を築田出羽守幼清とて築り費田為磨華の哥仙あり例祭八月十九日祠官鈴野氏

山王権現社

神村にありむすはるふより信濃の分りて往きありしが旅人此社の茶をて下馬して下馬を其の神の崇りありて思ふ事お島女の縁通相傳のありて云ふ

菅天神社

宇福寺村あり元禄二十年修造の棟札あり夫より以前創建の年月詳ならず菅天神の産土神なり例祭八月廿五日なり社傍天神山真福寺曹洞宗三圓正眼寺あり康元元年正眼寺三世天光和尚の願基として高提寺として大伽藍ありと云ふ事あり今所より今所の号に改むる天光和尚菅原姓ありて道實の末裔と云ふ

法成寺廢址

法成寺村にあり天台宗の梵刹として八竜山法成寺として大伽藍ありと云ふ事あり今八竜の小祠のありて法成寺の遺蹟と云ふ事あり法成寺の遺蹟と云ふ事あり

徳重里

一余禪岡藤良公の領地として生田の里として桃華葉の終り家領地あり

生田山林證寺

徳重村あり一向宗東山の内陣一家ありと云ふ事あり天台宗として丹羽郡大山寺村にありと云ふ事あり天保二年親善を人関東北導の初時の信持を人に傳へて改むる名と宗とを改むる事ありと云ふ事あり生田の里として生田主水として生田中宮大合戦の後世とて光昌と名を改むる事ありと云ふ事あり神君今津津神伐の神陣又藤とて教め上人下向ありと云ふ事あり大軍に犯されしやまれけり光昌後ひ藤とて林のありて伴ひしやまを奉りて上人とみ抱せしやまを奉りて後世の修名と林昌坊と云ふ事あり其後寛文二年今の所に移りて今も河津院末の叢書に文龜元年三月廿五日尾州丹羽郡生田道場と云ふ事あり又室敷呂あれども畧次

志賀田天神社

原田村にあり本國帳に從三位志賀田天神とあり旧村あり今も三所あり三町あり一は所にあつた事あり年今この地にうつた其跡の地を今も十二社として社設高所の形を真任年人四六口右系進社と修造して大門口中志那の地名として神名式又本國帳等に大口の神とのせめ鳥も曼陀羅の古法文あり大口の名見えて志賀里と云ふ事ありて其所ありと云ふ事あり右系進も其地名と苗字に名のありと云ふ事あり志賀里と云ふ事あり二ヶ所あり一は大口右系進一は真任年人といふ人物志に或衛家麾下の士といふ事あり其頃三河の志賀尾野に真任とて真任一對ありと云ふ事あり例祭八月廿七日末社天王社稲荷社天満宮社白山社塩竈社

鹿田山仁昌寺

同村にあり曹洞宗三圓正眼寺末より天台宗ありと云ふ事あり後高宗に改むる事あり村仁昌寺親善堂昔は天台あり曹洞宗ありと云ふ事あり若山翁の妙の山巻巻に春日井郡源田頃正眼寺天山和尚と云ふ事あり有りけしと云ふ事あり其の止むと云ふ事あり其の止むと云ふ事あり

訓原神社

井原本村にあり栗原天神と稱し延喜神名式に訓原神社本國帳に從三位とあり久利と音通

熊野權現社

熊野村あり此所の熊野と熊のなると其の起る本所と云ふ事あり熊野本宮と隣村原田村の熊野社と稱し延喜神名式に熊野社とありと云ふ事あり未社神明社淺間社荒神社等あり例祭九月十五日村童馬上の供人三所あり行列あり流瀧馬の多ありと云ふ事あり此の祭は熊野の祭に似たりと云ふ事あり

熊鳴山日光寺

同村にあり曹洞宗若宮村普澤寺末住昔真言宗より中世今の宗に改むるを夫六の阿弥陀行基井の作らひ侍りて一舟よりは海共一より紅世の時よりは所一取ありとや洋より渡りて今其山あり侍りて境内あり

牟都志神社

六師村あり延喜神名式牟都志神社本國帳小正四位下牟都志天神 一作 尼々官社

萬松山常安寺

豊場村にあり曹洞宗 永享年中明谷義光禪師の創建より衰微小及びいある地の領主溝口富之助

元年辛酉 九月九日平

其父藏田居士の菩提の為に大永四年甲申六月再

與一田地と寄附し且肥後国河尻村小あり釋迦阿難迦葉の三佛像と永樂錢百貫文して買取り南寺の本より次是天竺の佛工毘首羯摩天が赤梅檀の香木りて刻りて像の作りより俗小豊場の根釈迦と稱し海内に比類なき灵仏と

嗔威の釈迦の如く他所へ岡帳小出り奉らむと云ふ事あるに忽

其異りて動座しりて近年任信他所へ置居んて後

一奉らに其期小及びる像磐石の如く重くあり其事にけり

な向者これ大病とけり愠々甚なりと恐れをよにける

○本尊 本文に云ふや縁の臺に安置の 迦葉池

仏と燈をかきんとしりてにまきりて動くごとく服壇の迦葉の像を頂じて南座を

おけり侍りたり日おのり五神あり 阿彌陀と云ふは他にありて近年

鎮守 白山権現甚外秋葉社金毘羅社 延喜神名式小物部神社本國帳小從三位

物部神社 同村にあり俗に 延喜神名式小物部神社本國帳小從三位

物部天神とあり社あり境内廣く拜殿瑞籬祭文殿神門鳥居

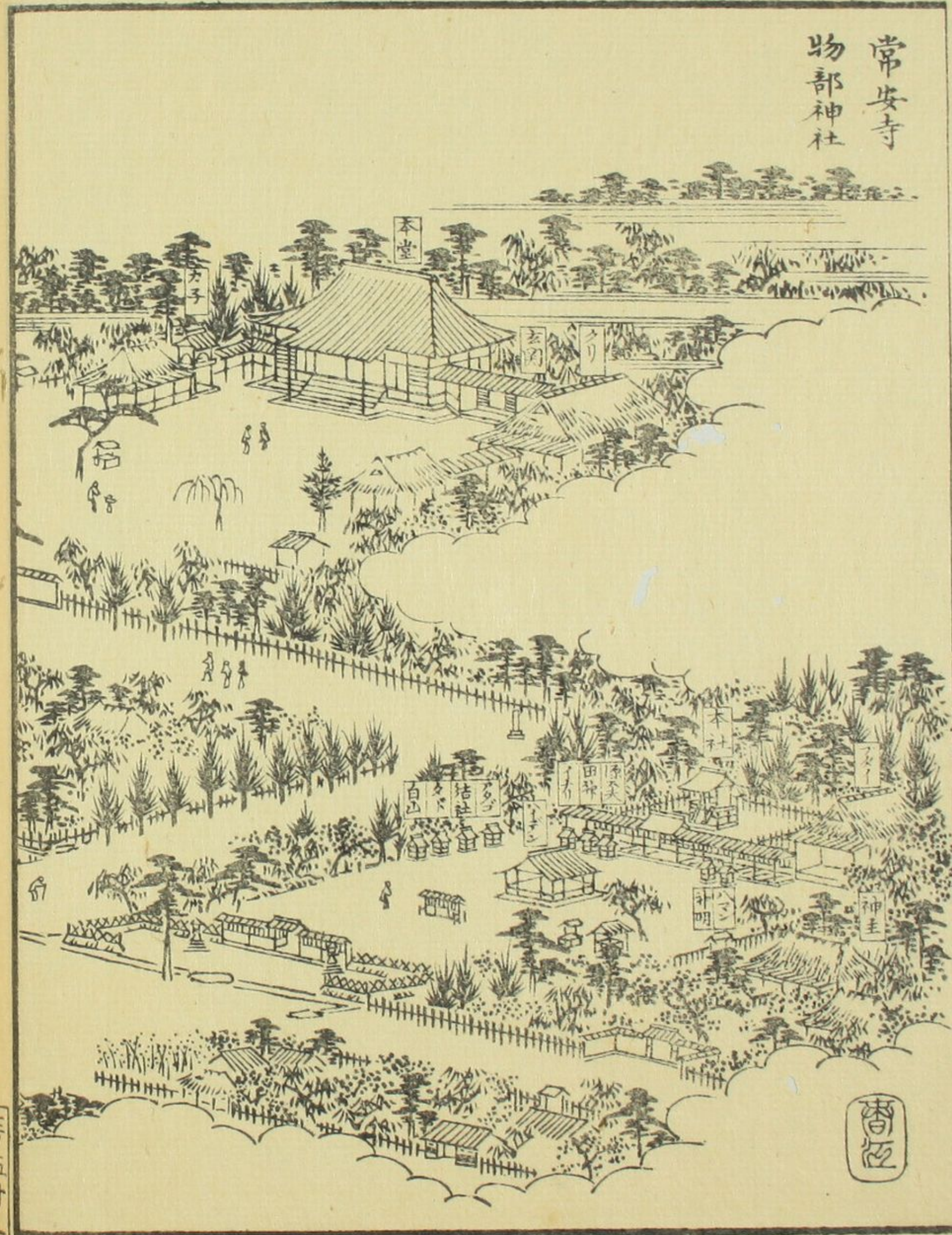
等巍然と立ちて孫亦社も多し 源太夫社多度社神明社白山社八幡社天王

社愛宕社稻荷社富士社御田社等あり其内天王社ハ溝口富之助勅清より侍り例祭六月十五日の吉日抛灯車各浦あり境介

神木

社の古木あり樹あり今に其神木にあり

常安寺
物部神社



國のうられ
都の敷と
まのまも
やうろ所と
神ヤ
正忠



春日井原

味淡村のわりの一糸に其地甚産く味淡赤勝川系あり曠野のやぶらき
年と述て畠に墾り田小つくりて五穀を生ず村里あり其後
雲雀と捕まひし尾園法皇の御成り御成り御成り其後
我ありありの御成り御成り御成り其後
口牌小跡あり

西行堂土橋

小牧街迄去日井原村田のわたりあり一ツの小き河つて西行法師の本像と
年と述て畠に墾り田小つくりて五穀を生ず村里あり其後
雲雀と捕まひし尾園法皇の御成り御成り御成り其後
我ありありの御成り御成り御成り其後
口牌小跡あり

色尚對一慈容一及濕襟

西行堂中興志

く川くもる西親小ひま山あかあろくく里の正此象

外山神社

北外山村小ありて
六所明神と称次

名式小外山神社本國帳小從三位外山天神と云々

具徳山妙藏寺 南外山村にあり日蓮宗契田本遠寺末あり日澄上人の開基ありて因
村跡樂寺と共に女保年中の草創あり人々長壽ありて色々奉
の年百二十六歳とて遷化あり祀師尊のちまひ日法上人の作りてある

片山神社

牛山村にあり延喜神名式に片山神社本國帳小從三位片山天神と云々
社ありと云ひ傳片山牛山の誤字ありと集院にありと又村中村八幡と
も片山神社と云ひ

潤應山竜徳寺

一之久田村にあり天台宗中因密院本開創年月洋々不詳
年と述て畠に墾り田小つくりて五穀を生ず村里あり其後
雲雀と捕まひし尾園法皇の御成り御成り御成り其後
我ありありの御成り御成り御成り其後
口牌小跡あり

本是上皇北面郎遙將攝籙喻鑑倉彫弓影速真如

月遺像猶聞道骨香 常陸 蕭々齋 圓位遺蹤何處尋飛車山北薜蘿深不堪古錦千秋

横井並明

一吹良松

釋正念

例祭八月十六日
末社春日八幡

例祭ハ八月廿日

坂庭神社 坂村にありて 延喜神名式に山田郡坂庭神社本國帳に從

三位坂庭天神とある事 坂庭村は牧の西の方にてむの山田郡の西一

長くうぶの北と春日部南山田といふ伊弉諾大乃仗也今このありたりて郡界とわかれ
夫よりわの味波外山牟都志野大志賀田今多氣郡大乃仗也今このありたりて郡界とわかれ
うちに入より夫よりや北のふわりて坂庭村に式此の山田郡といふに伊弉諾と
流りて春日部の坂庭と山田の坂庭と別地なりといふもわり今坂庭といふ村名外
ありては村民のいひ傳ふにありて

多氣神社 大氣村にありて 社傳に祭神伊弉丹尊なりといふ延喜神

名式に春日部郡多氣神社本國帳小從三位多氣天神とある

官社なり 多氣は清木に多氣地なるれど伊弉之部名と云ふりてタケといひ

未社 早玉社 舟財天社 例祭 八月廿日 神主 加藤

尾張神社 小汁村にありて 延喜神名式に山田郡尾張神社本國帳小從

三位尾張天神といふ事なり尾張氏の祖神天香語山命と

大已貴命と合已多と云ふ舊事紀の天孫本紀より新撰姓氏録

尾張張氏の本原の神といふ此香語山命と曩祖と云ふハ尾

張といふ國号の起まる主郷なれどは社と建らるが大神といふ世にさ

くましく連年の兵亂衰微してこの小祠としてありしなり

つらにびら祭器と作る 土器田といふ地も跡も又鏡田直會油

田ありと云ふ字も跡も又社の南のくに政所の舊址も存せり

坂村の表にふりて山田郡に 元より坂村の國の中央の地といふ國号もは地い

つとありて古人の流る式自の社もは地なり 奉 疑ありて 祭

神主 坂庭氏

粟田三所地神社 田村にありて本國帳に從三位粟田三所地神といふ舊社なり社況

命の三所と云ふ神といふ三所の号ありて毎年八月土日と當社も尾張神社の

栗崎氏秘方保童圓 小汁村四栗崎氏を警むるありて小見五府といふ法道の所創る粟

野宗と初代を栗崎氏の志わらんといふ追てわりのことに津原と造るを法と

系連りありて保童圓の法といふを石も水跡もと寄附の所願と云ふ

二月十五日と彫付しりし頃の頃より彼寺に藏せしや今もあらず
元亨釈書曰釋戒深尾州賢林寺住僧也五十年餘不出寺門日夜讀法華又感求舍利一日
庭上現舍利有音如雷色明白深試以鐵錘擊鐵砧上俱陷而不碎又投水不沉深歡喜供養
刺佛像安其中命終時向此像端坐結印拈阿彌陀而寂數日後身不爛壞跌坐
儀然州人哀惜建廟闕之と云々本朝高僧傳あり其人の法をのせしり
本尊 土面
る聖徳太子の作とて天祥あり云々
三十三所の一所としてあり云々

青松山正眼寺

三洲村あり曹洞宗
能登國總持寺末

中島郡下津村ありて禪宗近

国の總録と次應永元甲戌年當本の領主青生直正

寺傳に直正ハ
尊氏將軍の三

男直冬の曾孫なりしなり年歴もなきなり張州名勝志に青生尾張守直
政源尊氏親族尾陽侯修理入道家貞子尾張守尊常斯波武衛是也とありに
尊常と諸系圖ハ高経とて當國守護武衛家の元祖なり當ちに位牌ありて正
眼寺殿源朝臣前尾州太守青松直政大居士とあり其裏書に尊氏次男直冬子
青生尾張守直政とありハ後人
の書かるとあり
後小松院の勅許を得て草創し中島郡
下津の郷金剛山傳法寺の廢跡と再興し堂塔伽藍と營ぎ青生
山後青松山
と改む正眼寺と名づけ通幻寂靈禪師と開山し天鷹和尚
を住僧とて天先和尚ハ三代の住職あり傳法寺村
あちのありてハ
下津々の内なり
水潦の害ありて住僧修りの煩ひ多うりけし元禄二己巳年今の

地小移り天齋禪師ハ加賀國の人俗姓ハ後永氏大職冠二十一世
の裔孫實親の後うりし幼年出家し通幻和尚の徒し同
家の言旨と究む五十七歳東國赴歷のつとに當本にあり
うが領主青生氏道德と名信しとありて當ちと建えありしなり
かくて應永十九壬辰年四月青生直政卒し其翌年正月二日天
齋和尚も寂し是道元禪師五世の法嗣通幻寂靈の弟子なり
其頃ハ寺境十八町四面ありしなり三世天先和尚も大徳して言
力衆小勝とあり又雲鳥寺に手跡多く跡とり其後長七
壬寅年 性高院君天澤和尚ハ命じて大殿を新造し多し夫
より天澤の法嗣樹林和尚五百羅漢の像と造り山門と修造次
かくて元和年中天山和尚山門と改造し殿堂と修補す又門前
小大路と云ふ三百六十間ありて並に並ねと裁て萬松園小園
青生山と改て青松山とす 國祖君とありて當ち素縁し終日

和尚と談笑し、其後、其郷、意、土、芋、と皮のま、や、ま、奉、り、
し、ど、り、つ、は、は、和尚、紙、子、と、名、一、馬、小、ま、り、て、他、郷、小、行、一、を、
公、御、鷹、馬、將、の、途、中、と、し、く、く、に、な、ま、ひ、行、者、あ、ら、ど、と、同、一、り、あ、い、
り、バ、和尚、馬、より、下、津、の、正、眼、寺、と、な、く、く、に、名、の、り、て、さ、お、け、る、と、ぞ、和、
尚、の、道、徳、と、慕、ひ、四、方、より、来、福、ま、る、と、れ、多、く、齋、堂、を、し、く、し、
軌、則、と、ま、く、に、な、り、わ、り、け、し、と、新、に、造、作、を、加、へ、ま、と、廣、大、
ら、ん、寛、永、十、七、年、庚、申、佳、雲、恩、陵、和、尚、小、寺、務、と、め、づ、り、ま、の、
外、海、西、郡、赤、目、村、に、退、隱、す、其、地、の、領、主、横、井、時、安、和、尚、の、
悟、道、義、明、う、ら、小、歸、依、一、心、寺、と、建、て、居、り、檀、那、寺、と、い、
七、年、と、經、て、正、保、二、乙、酉、年、八、月、十、八、日、寂、と、臨、終、の、時、其、身、の、真、
像、小、額、す、上、々、紫、衣、鷄、寒、上、樹、下、々、紙、子、鴨、寒、下、水、の、高、致、が、
の、び、一、恩、陵、も、ま、大、徳、の、す、え、り、て、正、保、四、丁、亥、年、九、月、廿、八、日、
永、平、寺、の、良、頓、禪、師、旧、例、わ、り、状、と、下、し、て、僧、綱、と、一、且、當、ち、と

正眼寺大門

割断紅塵地亦幽老杉
蒼鬱未靈丘殿堂亭廟
森然列傳脈永平冠一
州

百信



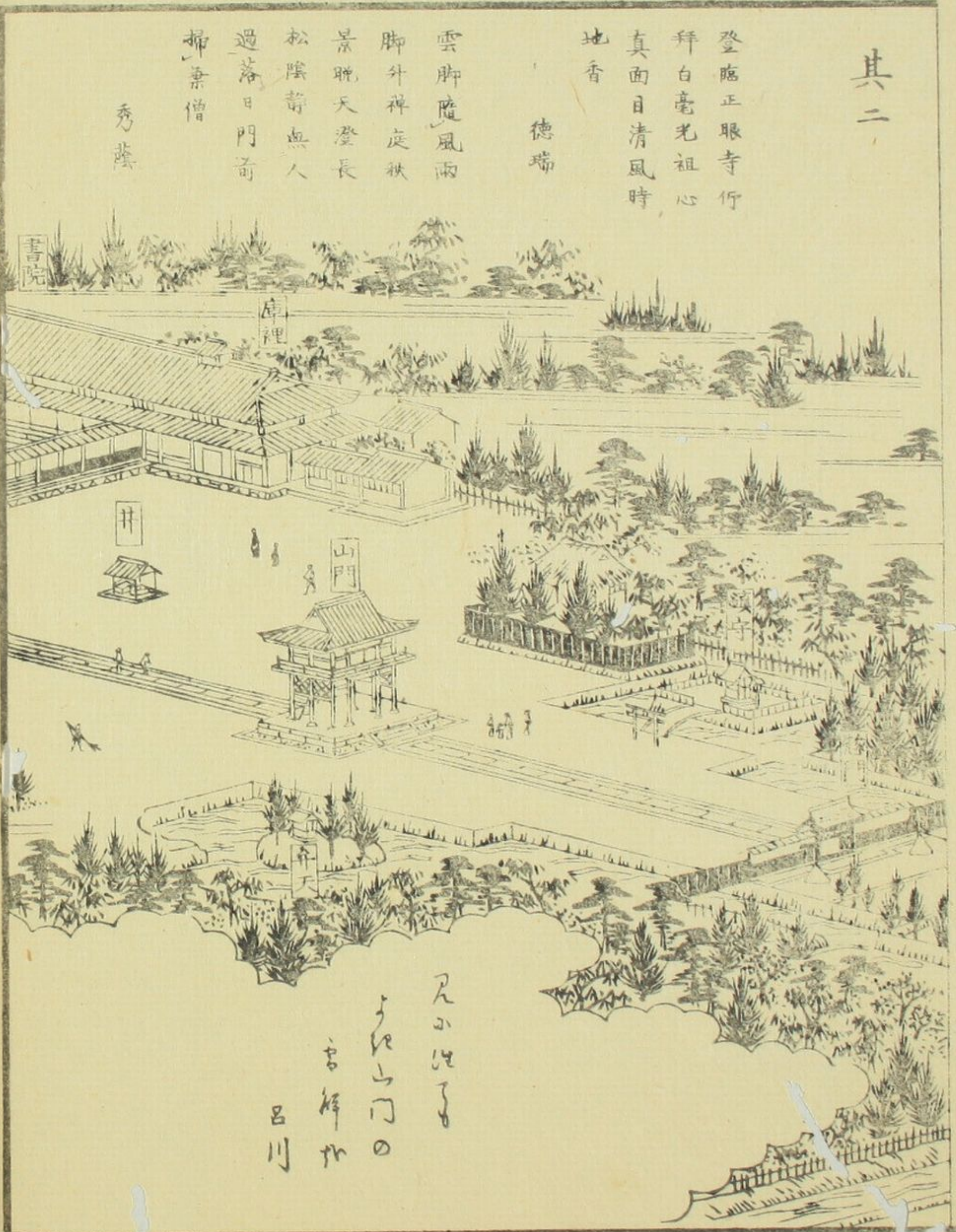
其二

登臨正眼寺
拜白毫光祖
真面目清風
時地香

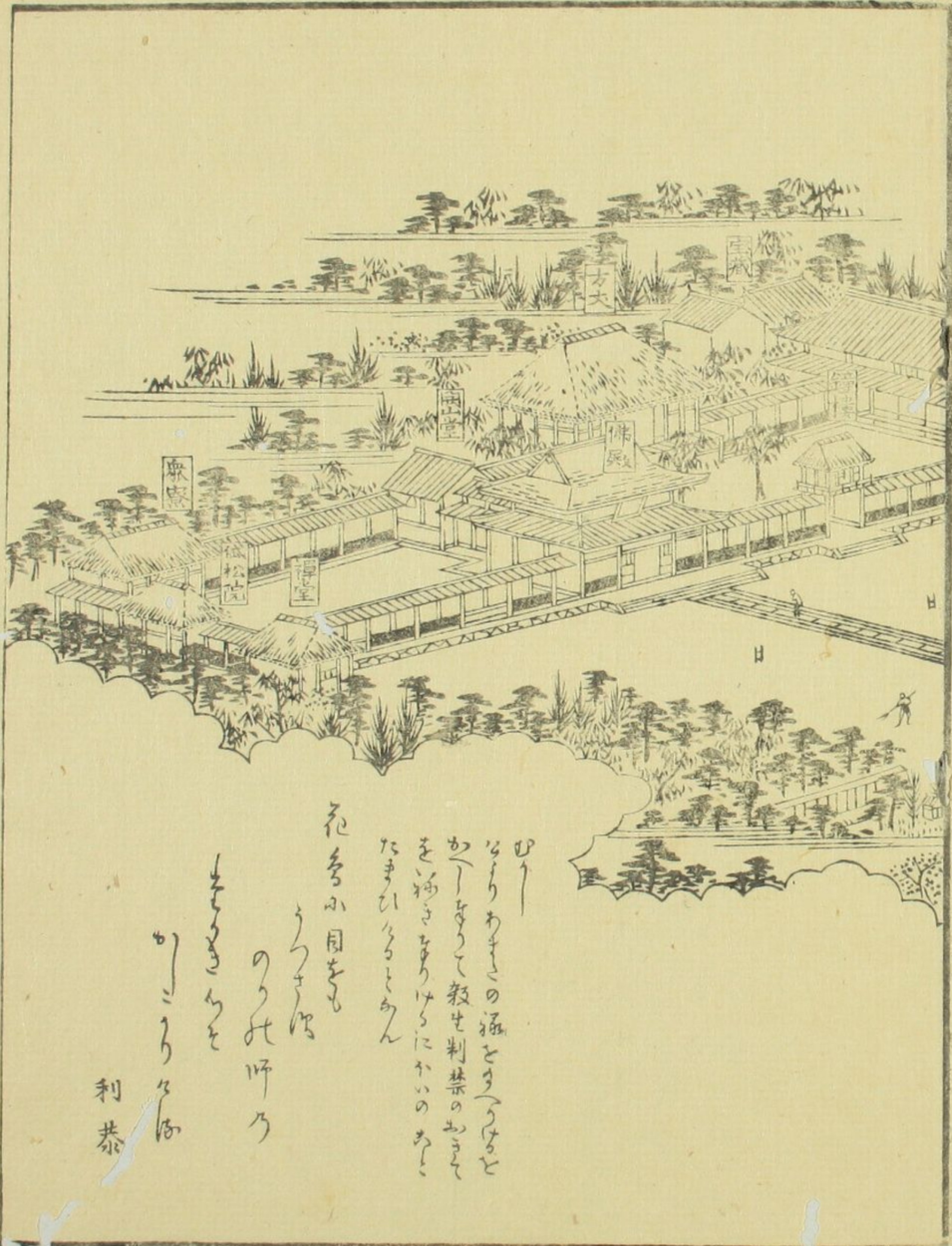
德瑞

雲脚隨風雨
脚升祥定袂
景晚天澄長
松陰寄魚人
過落日門奇
掃葉僧

秀蔭



尺の池了
ふれ山門の
古輝也
呂川



わ
公よりあまのの福をうけんと
わしをうて教せ判禁のおきて
を福さなりけらにかいのあし
たまひるるとん
花香小園き
うらき
のうれ所
しきき
わしき
利恭

尚書の録所洞宗一切の事と掌らしむ翌年入滅す終り小幡
て南陽嫩壽和尚と後任し次慶安二巳丑年嫩壽雲貞寺の
嫩泰和尚と本末の論起り僧録訴詔公裁に及びしが終に尚
小利と云雲貞寺と永く尚ちの末寺とあり是尚ちの面目を

○佛殿 後元年の春剣山門より大寺より
三年の建立浴室廻廊等同下年の修造大港の
西保四年十月修造し銘小尼し

丈鎮守 白山権現其外伊勢宮とあり
日本大の神社を今もせあり

寺寶 關津檀金の誕生佛長二寸八分
永年中下津川の五輪が淵より

引揚り靈佛あり黄金の鑰石と尺八分あり鉄槌あり
ければちとてあちち寄附せしといひ佛の胸間に掘り
みうしも位のおまう有可に作せし宝教とつくりし
の龜年會にのり同縁とあり諸人にぬせしむ
祿年中朝鮮征伐の時貴志善吉の所より彼の地より
附りし彩画の精密凡工の画く所あり大福具足桂
てり○成正寛觀音の像定朝作の竹篋一握唐竹と
くく奇品あり○九条袈裟一領ハ洞山の老翁室内に
一面京都道正菴ト頌の寄附ト頌の先祖道正と
後り帰朝の後も後師に給仕せしとあり道正の牌
の所 國祖君一燒芋と盛りてしりげしりつら
をに登りて其例式あり○僧録免許の狀教通制札
教扁。觀音妙懺梵網經二卷

天先和尚の筆にて永承庚子四月廿二日書写の
音名号か天先和尚の筆なり○維摩詰像雪舟筆
釈迦妙音辨財天像もに元信筆とあり唐画の山水
正眼草鳥集等の古記録信長公信雄公とあり其
寺領 津田左近冠掾一徑巻と後佛像と廢し已が
と成松院の周圍とあり信長公に懸けしり公の
安堵とありしり信長公父の老を後田賦寄附の
九日あり同十八年の秋又散失しと田中兵部大
進一文孫年中秀吉公も頌の朱印とあり其の
より今に 塔頭 一仲菴 二代忌 二月二日
延持あり 雁漢とね 二世天智和尚の大
小牧驛 名古屋より本名路へむ馬継と善師
通次町屋を農高村とあり休泊の旅店多し正事
小牧山の南の麓 今元小牧 小わりけと 國
一街道ともつけ磐並松と植せし今の小牧着
唐尻小寛文七年丁未小牧駅の市とあり

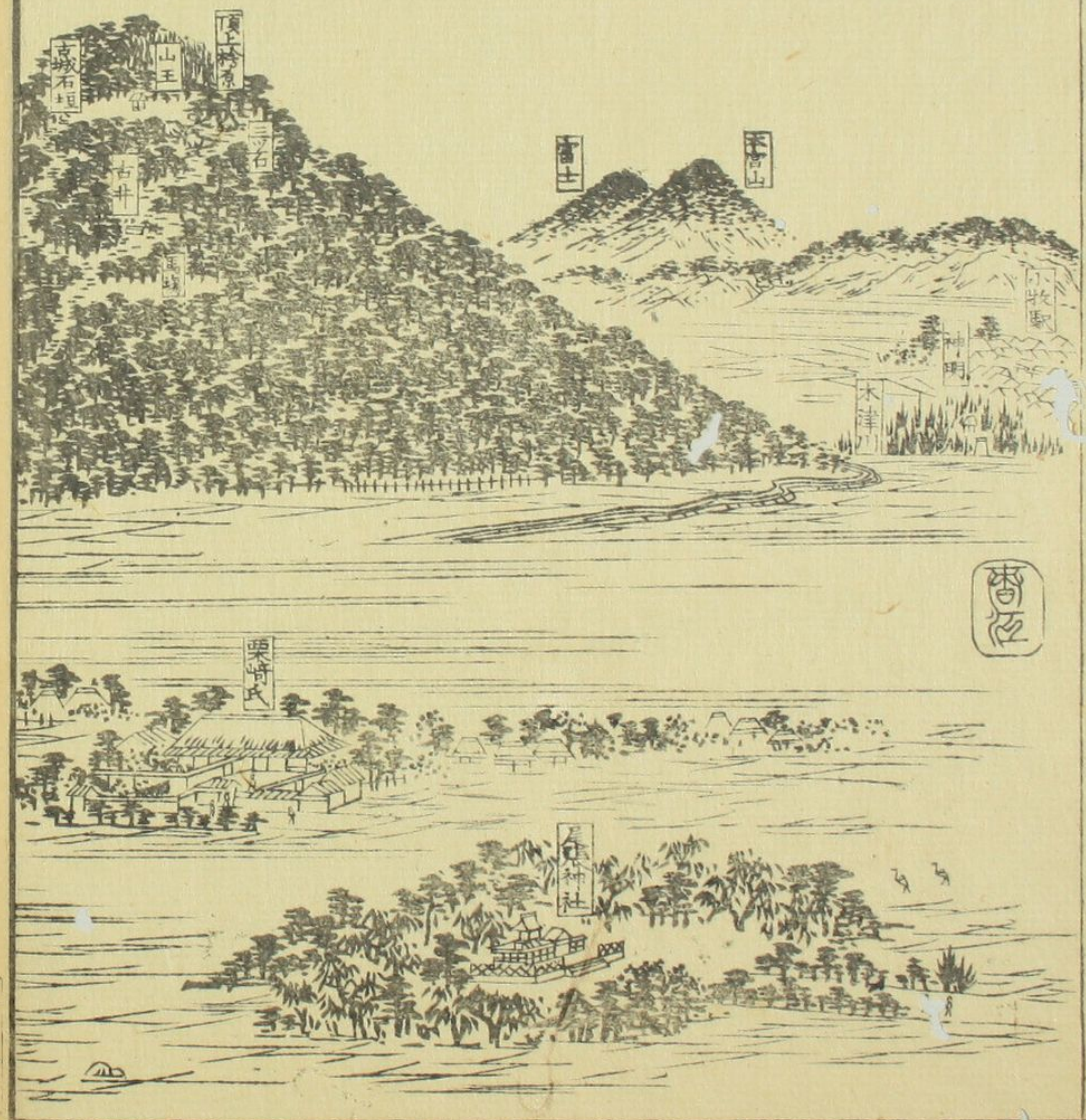
小牧山 小牧山の西にあり一名と飛車山とあり
系の北に極まり松捲頂より國中と馳せし
風系なき大和の香具山と終り山に栲

小牧山
尾張神社

智照雖工本
不經豈如神
算有儀聖儼
然牙帳留芳
蹟一凸孤山
萬古青

高木當友

牧野真成小
牧山萬旗東
去樹如烟而
降泰誓無人
記唯屬樵歌
百幾年
服部牧山



菅

一舉義兵壽域開猶看
旆色止雲隈川通南海
如流練山在平田若覆
杯綠樹相交常靄群
峰遠阻獨雀鬼千秋萬
古甘棠德長對而城是
盛哉

江崎惟孝

龍音寺

啓



家にしつりんの
まをりつりんの
りつりんの
りつりんの

神君の御本陣と定めらるゝ其御軍沖心のもとに勝利ありし御
 吉例よあつて御山あまの國祖君よつて御代々其旧地とまひ
 今も御山のしり難人の入幸と禁より御軍の事蹟
 忌諱多かれが碑文に漢りてくに漢り

諸馬後銳成旋間陣使聽池秀自信衆與夫小
 軍伏折列飾道之大之田吉將雄入織小牧
 道尸神剛與進迹須留勝不兵在尾田信山
 走其君連森神軍擊賀酒入能八清州欲雄者
 一兵之勝長君至之康井督前千洲城擊有
 戰土兵遂可揚長而高忠諸退而援請信隙東
 而崩機長勳旗手矣三康川三田曠日據小神其
 斬勝龍可力督于矣時千政等以守其持牧山因信長臣皆屬秀吉
 首入放指督戰高勝夜潛以守其持牧山因信長臣皆屬秀吉
 石軍鳥銃士神出等與守其持牧山因信長臣皆屬秀吉
 餘不銃卒神出等與守其持牧山因信長臣皆屬秀吉
 級利勢卒神出等與守其持牧山因信長臣皆屬秀吉
 衆如欲君其等與守其持牧山因信長臣皆屬秀吉
 神大兩衝之不聽信三馬兵九此拒之長臣皆屬秀吉
 君潰壺其兵意後雄千出為先八日神密嚴整之
 須而左右瞻勝軍出小先鋒向神密嚴整之
 史父擊軍氣奮倉而從敵
 振子長可出其挫惶而
 旅授可出其挫惶而

記文叙已北者夫洪授矣援攀破武命良既幡馳信
 惟昆三威維魏之王其今三神基非其信其精濟創將而象至
 非陽軍起邦然且曾事歲里神哉人義雄麟鏡昆業之班易泉小
 人推手疾藩名猷孫以元惟君方聖力大子也勇危難之全敢其於君肯而凱
 力勇裡雷屏山銘萬傳祿本之今子也勇危難之全敢其於君肯而凱
 日之万十邦曾神而遠難之全敢其於君肯而凱
 乃柏百氣蜀上太代一之孫尾孫後賢殪徒剛殺大樂之徒勝旋
 代壁万吐險直守其給勝也州繩受於勝也也萬大逐錯拍吉己敗望日
 天謀胸長泰下之結戊區南太々命漢入也夫之勇引拍吉己敗望日
 工功中虹潼豐謂述寅也顔之思暇納乃克英一視吉耐有退歎作岷秀
 歷仁勝良剋蓬臣志十思暇納乃克英一視吉耐有退歎作岷秀
 世懷入平々島健不一亟言續寬主戰之者唐見于息威日秀吉
 具射授失武揚拜偉月神望從麟復天而如不太宗于天伏文朝擊怒將
 瞻虎首策夫波而詩碑之牧位之万称秀芥出之栢下惟武擊怒將
 于義考晋桓膽駿茲烈州綱矣千日之以驍壁者自漢古備乃止小
 秦制吉楚折英擊嚴惠地而城誠于歲殆大少將而退光受之
 于蛟卻折英擊嚴惠地而城誠于歲殆大少將而退光受之

殷周 神君 元禄十一年 戊寅 冬十一月 大勲 什一 遺澤 流風

神明社

同所高の西にあり傳へん永福五壬戌年信長公小牧山の上に城と移し築んとし神居
け色に公すす多し忌事あり我法拓あり清須の津園津浦の祖友として山上の公の御子
と修りしに遂にこの築き且山の東のうに地と據りてい社と勧請すなり例を三月十五日
山車二輛と引渡すは神の令も
津園津浦の神の令なり

大壽山玉林寺

同所にあり曹洞宗岩倉庵澤寺末天正二年戊寅二月重禪の天洲和尚
才子の明賢として傳へり閑山として當を開創すなり元小牧にあり
元和九年今此地へ引移りしなり其の詩和尚の詩集金山稿にありたりて世にひらくす
観山稿の題として一編あり其の詩和尚の詩集金山稿にありたりて世にひらくす
まゝ當の山号其の改りしなり今改りて又境内に石巴の碑あり

謝霞 松壽山 有芙蓉 統莫不 海而迷 生自掃 生詩賦 寫出觀 浮伊吹 連海氣 悠去留 觀々雁 度金樓 樓々秋 樓上布 衲己白 頭木無 一

空幢山西源寺

同所にあり一向宗東派系都本山直木大谷遺跡録に春日井郡小牧西源
寺ハ是又瀬部七箇寺の隨一なり其の岩會に在て天台宗の佛圖
名号蓮師拜寫の和讃三帖と安直とありとあるなり今も多宝多

八幡社

村中村にあり貞觀十三年辛卯五月山城石清水八幡宮とあり
名号蓮師拜寫の和讃三帖と安直とありとあるなり今も多宝多
名号蓮師拜寫の和讃三帖と安直とありとあるなり今も多宝多

實々天神社

同所村にあり今白山とて本國帳に山田郡正四位下
實々天神とて入るる舊社なり例祭八月十五日

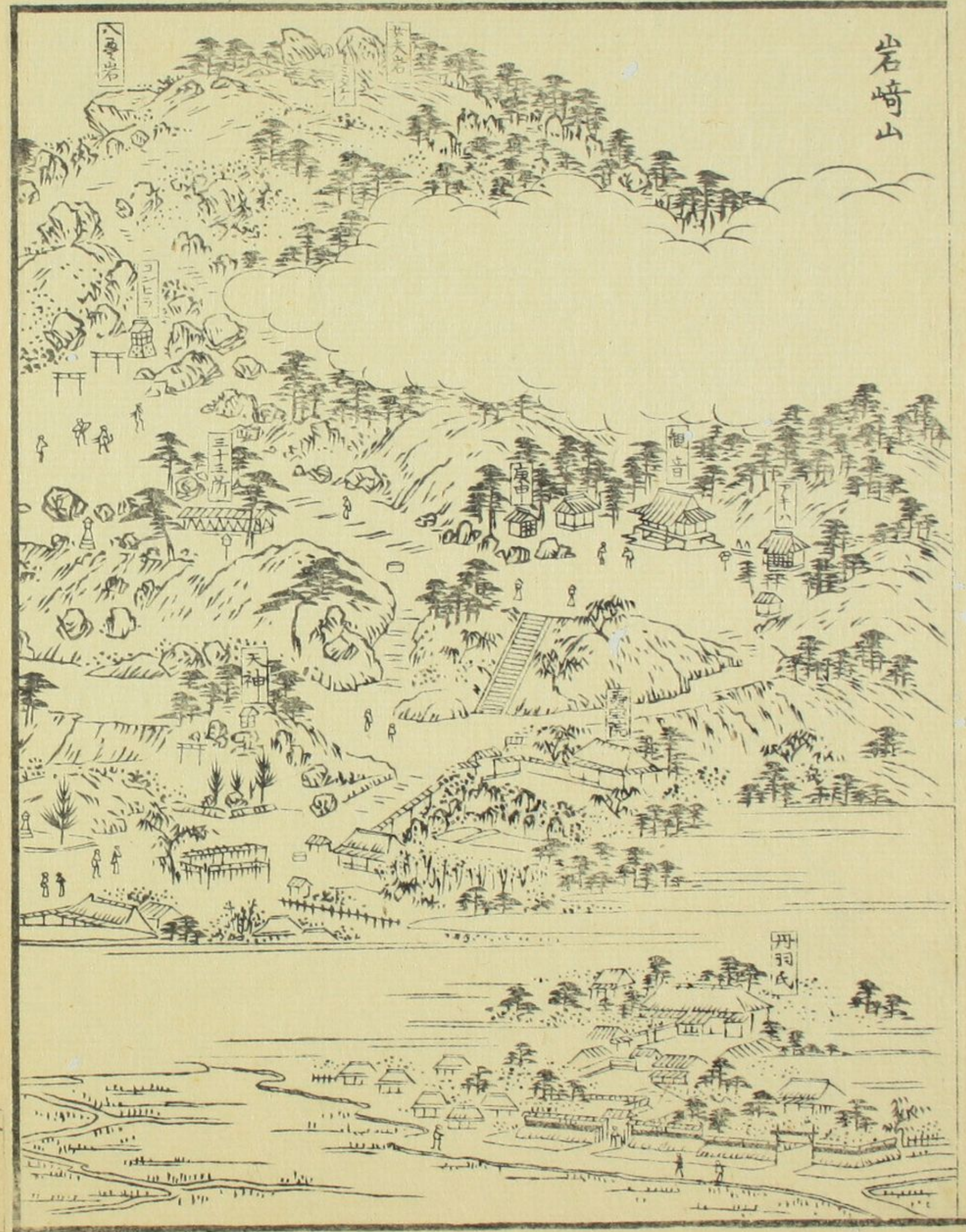
飛車山龍音寺

同所村にあり今白山とて本國帳に山田郡正四位下
天正年中今の地に移すなり今も千石あり銅佛あり法大
師の作といひつゝ山上に旧法の礎石ありて俗に七石といひ今も千石あり銅佛あり法大
師の作といひつゝ山上に旧法の礎石ありて俗に七石といひ今も千石あり銅佛あり法大

岩崎山

同所村にあり今白山とて本國帳に山田郡正四位下
天正二年
同所村にあり今白山とて本國帳に山田郡正四位下
天正二年
同所村にあり今白山とて本國帳に山田郡正四位下
天正二年

岩崎山



登岩崎山別入

菅克奉

杜盟詩載

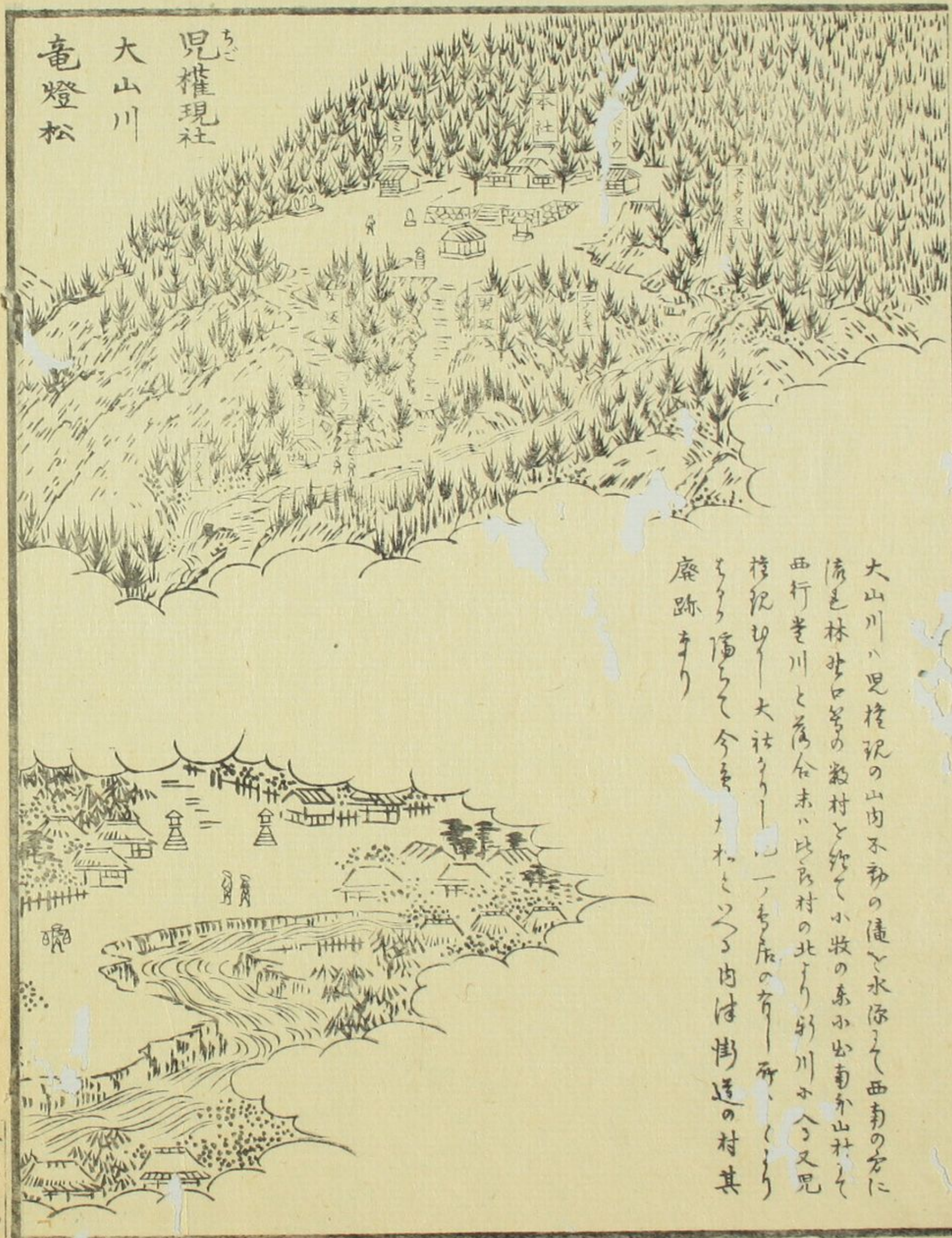
空山吹笛倚崔嵬白石

青松映綠苔花落鳥啼

春欲暮離情難盡掌中

杯





大山川、見権現の山内不動の滝、水涸りて西南の方
 流、是林野の穀村と総て小牧の赤木山南の山村と
 西行き川と落合末の此村の北より新川へ入る又見
 権現の、大社より一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、
 十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、
 二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、
 二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、
 三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、
 四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、
 四十八、四十九、五十、
 廢跡あり

町奉行と勤め後小五奉行の一人 あり其頃法印秀吉公に清ひて居

山林をむねく多付と云ふ ○本尊 千手観音の像ハ昔云の作とて之れ故通マ小原に

ありと前田玄以法印包得て旧後の號共ハ

櫻樹 天正の古村より云々 柳 あり天正の

古三の塔ありハ其の寺堂

寺堂 忠吉君伊奈備前守を

寺領 兼安三年 七堂十二坊と具の多き 寄附ありて退轉ハ天正十年八月三十二貫文の代

金剛山大泉寺 他之内村あり曹田ハ三間村正殿も亦天正七年足立氏の建之申てこそ拈花教

白山社 此口村にあり餘ハ三十三ヶ村の氏林ありてハ入麻他のみあり

非多天神社 林村のりハ本國帳ハ徒三位非多天神とあり友林あり集説に味岡庄林村

児権現社 大山村のりハ峻険なる山の頂に法光あり山の不動の像と云ふハ大山川の水原より其系は地

起りていふハ攻秀也堂様伽藍と残ハ源法上人のやうなりハ三人の児ありて苦哉ハ係ハ死ハ一人ハ三州

牛田氏の子一人ハ長坊ハ其の之甚後 高倉帝ハ胎ありてト都一傍二児の崇へて奏ハたり則其ハ

らハ児権現と稱す毎年 三月十五日供ありハ甚やれ死ハ日る多之と縁起にあり社亦石の七の塔甚き也

うハ又石の手水鉢ハ永享十三年二月大西之士某寄進と云ふり又山のふに不動をけりハ明王院掌

尾張名所圖會後編卷之三 畢



